

2024年度 2期・秋学期
名古屋外国語大学 授業改善のためのアンケート調査
結果総括

FD委員会
アンケート調査実施プロジェクトチーム
梅垣昌子（副学長・教育担当）

2024年度2期（国際日本語教育インスティテュートは秋学期）の授業を対象として、「授業改善のためのアンケート調査」が実施された。この調査は、授業に対する学生の要望を把握し、授業の改善に役立てるとともに、FD活動を促進し、本学の教育の質の向上に資することを目的とする。本調査は、名古屋外国語大学FD委員会のもとに置かれた、アンケート調査実施プロジェクトチームによって実施された。実施期間は、下記のとおりである。

学部：2024年12月17日（火）～2025年1月17日（金）

大学院：2024年12月17日（火）～2025年1月17日（金）

国際日本語教育インスティテュート*：2024年12月3日（火）～2024年12月16日（月）

*留学生別科（IJLE）

調査対象科目には、原則としてすべての専任教員および非常勤教員が担当する、2期開講の全授業科目が含まれるが、10名以下（大学院および国際日本語教育インスティテュートは3名以下）の科目や、オムニバス方式による授業、集中講義等は、対象外となる。調査には原則としてWebシステムを用い、結果の集計は、マーク回答事項および記述式回答事項ともに、教務課において行われた。

調査結果は集計後、各授業担当教員に返却された。その結果について、授業担当教員を対象とする「2024年度2期授業改善のためのアンケート調査に対する教員アンケート」を実施した。教員アンケートは、記述式による4つの質問項目からなる。

本報告では、2024年度2期の「授業改善のためのアンケート調査」への受講生の回答結果と、「授業改善のためのアンケート調査に対する教員アンケート」に寄せられた教員からのコメントについて、全学的な総括を行う。科目系列ごとの詳細については、各学科・センターによる分析結果を参照いただきたい。

1. 授業改善のためのアンケート調査結果（受講生による回答）

（1）回答結果の概要

今回の「授業改善のためのアンケート調査」は、受講者総数29,343名を対象に、Webシステムで実施した。回答総数は8,318件で、回収率（回答総数÷受講者総数）は28%であった。なお、前年の2023年度においても2期に同様のアンケート調査をWebシステムで実施したが、回収率（回答総数÷受講者総数）は同じく28%であった。受講者総数、回答総数、回収率のそれぞれについて、学部・大学院・留学生別科の内訳は、以下のとおりである。

回答結果の概要	内訳	2024	2023
受講者総数	全学	29,343	30,054
	学部	28,832	29,481
	大学院	41	51
	国際日本語教育インスティテュート	470	522
回答総数	全学	8,318	8,487
	学部	8,177	8,228
	大学院	23	26
	国際日本語教育インスティテュート	118	233

回答結果の概要	内訳	2024	2023
回収率	全学	28%	28%
	学部	28%	28%
	大学院	56%	51%
	国際日本語教育インスティテュート	25%	45%

(2) 質問項目ごとの分析結果

授業改善のためのアンケート調査は、マーク式質問と記述式質問からなる。マーク式質問については、4つのカテゴリーのもとに、総計21の質問が設けられており、そのうちの12問は全授業に共通、9問は特定の科目や授業形態を対象としたものである。回答形式は5点法を採用している。4つのカテゴリーと選択肢は次のとおりである。（詳細については別表1参照）

- A. 総合評価 B. 学生自身について C. 授業方法について D. 授業内容について
 5. とてもそう思う 4. ややそう思う 3. 普通 2. あまりそう思わない 1. そうは思わない

記述式質問については、「授業に関する良かった点」「授業で改善を求めたい点」「その他、意見や要望」の3項目について回答を求めている。なお、マーク式質問で「そうは思わない」と回答した項目について、特記事項があれば記載するよう求めている。

以下、マーク式質問項目において全学的な総括を行う。具体的には、全授業に関わる質問項目について、全学的な傾向を確認する。特定の科目に関する個別事項等については、各学科・センターによる分析結果を参照いただきたい。

A. 総合評価

総合評価のカテゴリーに設けられた質問項目は1つで、授業の満足度を問うものである。授業の満足度については、全授業で項目平均値は4.3（5点法）であった。そのうち、もっとも高かったのは大学院で4.9、ついで国際日本語教育インスティテュートが4.4、学部が4.3であった。この項目に関する詳細と過去3年の推移は次のとおりである。全学の平均は高い満足度を維持しており、特に大学院については、5.0に近い評価が続いている。

A	総合評価	2024	2023	2022
A-1 授業の満足度	全学	4.3	4.3	4.3
	学部	4.3	4.3	4.3
	大学院	4.9	5.0	4.5
	国際日本語教育インスティテュート	4.4	4.4	4.4

B. 学生自身について

学生自身に関するカテゴリーに設けられた質問項目は5つあり、そのうちの3つが全授業に関わるもので、それぞれ、受講者が自分の出席状況、受講態度、シラバスの活用（登録前・履修中）について評価した結果を示すものである。出席と受講態度について、全授業の項目平均値はそれぞれ、4.3と4.4であった。いずれも、大学院がもっとも高い数値を示している。シラバス

の活用については、全学の平均が3.7であり、比較的低い数値になっているが、大学院と国際日本語教育インスティテュートについてはいずれも4.5以上の高い数値を示している。これは、学部におけるシラバスの活用度が相対的に低いことを示している。この3つの項目に関する詳細と過去3年の推移は次のとおりである。

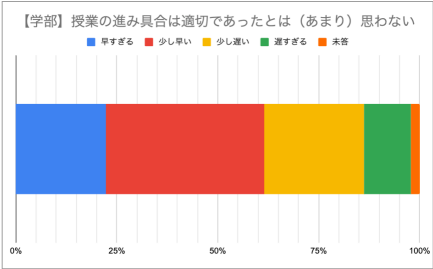
B	学生自身について	2024	2023	2022
B-1 出席	全学	4.3	4.4	4.4
	学部	4.3	4.4	4.4
	大学院	4.6	4.9	4.7
	国際日本語教育インスティテュート	4.1	4.2	4.1
B-2 受講態度	全学	4.4	4.4	4.4
	学部	4.4	4.4	4.4
	大学院	4.9	5.0	4.8
	国際日本語教育インスティテュート	4.5	4.6	4.5
B-3 シラバスの活用	全学	3.7	3.7	3.6
	学部	3.6	3.7	3.6
	大学院	4.6	4.9	4.8
	国際日本語教育インスティテュート	4.5	4.4	4.3

C. 授業方法について

授業方法に関するカテゴリーに設けられた質問項目は6つあり、そのすべてが全授業に関わるもので、授業進度の適切性、説明のわかり易さ、授業時間（開始・終了時刻）が守られているか、教員の熱意、私語への適切な処置、授業参加への配慮について評価した結果を示している。説明のわかり易さ、授業時間、熱意、授業参加への配慮に関する評価は、4.4から4.6の範囲を示している。大学院においてはいずれも相対的に高く、特に熱意については5.0という高い数値を示している。授業進度については4.3、私語への適切な配慮については4.2であった。授業進度が適切であったかという質問については、「そうは思わない」「あまりそう思わない」と回答した受講生は全体の5%で、そのうち、早いと感じている者の割合は61%、遅いと感じている者の割合は36%あった。これら6つの項目に関する詳細は次のとおりである。

C	授業方法について	2024
C-1-1 授業進度 の適切性	全学	4.3
	学部	4.3
	大学院	4.7
	国際日本語教育インスティテュート	4.4
C-2 説明 のわかり易さ	全学	4.4
	学部	4.4
	大学院	4.9
	国際日本語教育インスティテュート	4.5
C-3 授業開始・終了 時刻の厳守	全学	4.6
	学部	4.6
	大学院	4.9
	国際日本語教育インスティテュート	4.7
C-4 教員の熱意	全学	4.6
	学部	4.6
	大学院	5.0
	国際日本語教育インスティテュート	4.6
C-5 私語 への適切な処置	全学	4.2
	学部	4.2
	大学院	4.8
	国際日本語教育インスティテュート	4.4
C-6 授業参加 への配慮	全学	4.4
	学部	4.4
	大学院	4.9
	国際日本語教育インスティテュート	4.6

授業の進み具合は適切であった	全学	学部	大学院	IJLE
回答総数	8,318	8,177	23	118
とてもそう思う・ややそう思う・普通	7,861	7,725	22	114
そうは思わない・あまりそう思わない	457	452	1	4
C-1-2 「そうは思わない」 「あまりそう思わない」 を選択した場合 当てはまるもの	早すぎる	101	101	0
	少し早い	178	177	0
	少し遅い	115	112	1
	遅すぎる	53	52	0
	未答	10	10	0



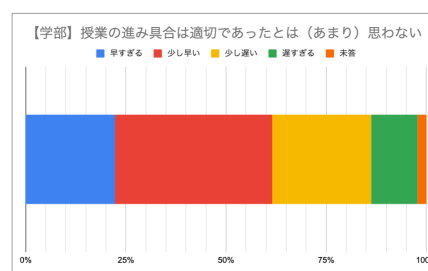
D. 授業内容について

授業内容に関するカテゴリーに設けられた質問項目は8つあり、そのうちの2つが全授業に関わるもので、授業のレベルの適切性と授業への興味について評価した結果を示している。それぞれ全学では4.2と4.3であるが、大学院においてはいずれも4.8で、高い数値を示している。授業レベルが適切であったかという質問については、「そうは思わない」「あまりそう思わない」と回答した受講生は全体の7%で、そのうち、高いと感じている者の割合は73%、低いと感じている者の割合は24%であった、これら2つの項目に関する詳細は次のとおりである。

D	授業内容について	2024
D-1-1 授業レベル の適切性	全学	4.2
	学部	4.2
	大学院	4.8
	国際日本語教育インスティテュート	4.2

D-2	全学	4.3
授業内容 への興味	学部	4.3
	大学院	4.8
	国際日本語教育インスティテュート	4.5

授業のレベルは自分にとって適切であった		全学	学部	大学院	IJLE
回答総数		8,318	8,177	23	118
とても思う・やや思う・普通		7,759	7,631	23	115
そうは思わない・あまりそう思わない		559	546	0	13
D-1-2	高すぎる	106	105	0	1
「そうは思わない」	少し高い	300	298	0	2
「あまりそう思わない」	少し低い	95	92	0	3
を選択した場合	低すぎる	41	34	0	7
当てはまるもの	未答	17	17	0	0



2. 授業改善のためのアンケート調査結果に対するフィードバック（教員による回答）

授業改善のためのアンケート調査の結果に関し、授業担当教員を対象として「2024年度授業改善アンケート調査に対する教員アンケート」を実施した。このアンケートは記述式により、4つの質問項目からなる。（詳細については別表2参照）多く寄せられたコメントの中から、代表的な記述を中心に、そのごく一部を紹介する。

（1）アンケート調査結果の受け止め方

- ・ 回答数が少なかったので、次年度は積極的に回答してもらえるように指示する必要があると感じた。
- ・ 回答率が3割程度のため断定的なことは言えないが、おおむね授業を肯定的にとらえてもらい、まずは安堵している。
- ・ Overall, I'm pleased with the feedback from students. The scores indicate that most students felt positively about the structure, clarity, and usefulness of the course.
- ・ Since there were no student responses collected, unfortunately, I was unable to gain feedback from this particular group. It's difficult to assess students' perceptions of the class quality without any data.

（2）授業で解決すべき課題

- ・ 受講生のレベル幅が大きいと感じる。
- ・ 苦手な学生にとっては授業スピードが速いため、授業で扱う範囲を減らし、課題作成やアクティブラーニングを増やす工夫をしたい。
- ・ 学生が課題に取り組む際にネット検索などに過度に頼らずに自分の力をもっと使うようにさせることが

必要だと感じる。

- ・ 学生に対して、もう少し丁寧なシラバスの確認・説明が必要なかもしれない。
- ・ There have been some issues with completing the submission/assessment cycle in a timely manner.
- ・ One area for improvement may relate to student engagement with the course syllabus. It's possible that some students did not refer to the syllabus regularly or were unaware of how to use it effectively.
- ・ One challenge this semester was motivating some students to consistently work hard on improving their language skills, as many now rely on AI tools and translation apps.

(3) 授業での工夫

- ・ 学生の積極的なグループワーク参加と教員との対話を大切にしている。
- ・ 問題意識を持たせるために、課題を提示しディスカッションを通し様々な考えがあることを知ること、気づきを日常生活で行動化していけるように促している。
- ・ 毎回の授業後に Reflection Sheet という形で学生の意見を取り入れ、翌週の授業でフィードバックするようにしている。
- ・ オンライン授業ではチャット機能を使い、質問と回答のやり取りを増やした。
- ・ 課題に取り組んでから授業を受ける反転授業を取り入れている。
- ・ AI を用いて課題をしていた学生がいたそうなので、なるべくそのようなことにならないよう来年度は目を光らせたい
- ・ I use active teaching and learning, according to the education concept in a relaxed environment.
- ・ To enhance educational effectiveness, I consistently integrated structured speaking tasks such as pair interviews, group discussions, and situational role-plays.

(4) FDへの意見

- ・ 毎回示唆に富んだ学びがある。
- ・ 失敗例の紹介。
- ・ 他の先生方の成功体験などを教えていただけたらありがたい。
- ・ 教員同士がお互いの授業を参観できる機会があれば、自然と授業の質が上がっていくように思う。
- ・ 大学院教育の在り方。
- ・ To give more orientation about education to all the teachers, because It's hard to do active teaching and learning when the previous class was not active learning.

3. まとめ

今回の授業改善のためのアンケート調査では、前年度に引き続き、総合的な授業の満足度は、全学的に高い数値を維持している。教員の熱意や説明のわかり易さに対する高い評価がその裏付けになっていると考えられる。このように概ね良好な結果が得られているものの、アンケートの回答率が低いことが課題である。また、特に学部においてシラバスの活用の定着が低いと見られる状況が続いている。学修者目線に立って充実度の高い授業を提供するために、これらの課題の解決が望まれる。他方、教員からのコメントでは、学生の生成AI等の使用について、多くの言及が見られた。今後のFD等で、個々の教員の知見を全学で共有するとともに、広く学外の情報も取り入れて授業の質の改善をめざしていきたい。

【別表 1】

名古屋外国語大学 授業改善のためのアンケート調査		
【マーク式質問】	5. とてもそう思う 4. ややそう思う 3. 普通 2. あまりそう思わない 1. そうは思わない	全授業 対象 備考
【A. 総合評価】		
A - 1	この授業は全体として満足であった。	○
【B. あなた自身について】		
B - 1	この授業には、休まず出席していた。	○
B - 2	この授業には、真剣な態度で受講した。	○
B - 3	この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	○
B - 4	この授業に関して予習、復習などを積極的に行った。	【講義・演習・ICT・専攻言語・複言語・PUT（CELP・専攻言語）のみ】
B - 5	この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。（教科書、参考書等が指定されていない場合は、回答しないで下さい。）	【講義・演習・ICT・専攻言語・複言語のみ】
B - 6	この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。・聞く・話す・読む・書く	【専攻言語・複言語・PUT（CELP・専攻言語）のみ】
【C. 授業方法について】		
C - 1 - 1	授業の進み具合は適切であった。	○
C - 1 - 2	そうは思わない・あまりそうは思わないを選択した場合は、当てはまるものを選んでください。	4(早すぎる) 3(少し早い) 2(少し遅い) 1(遅すぎる)
C - 2	教員はわかり易く説明していた。	○
C - 3	授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	○
C - 4	教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	○
C - 5	授業中の私語には適切な処置がとられていた。	○
C - 6	学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	○
【D. 授業内容について】		
D - 1 - 1	授業のレベル（スポーツの場合は運動量等）は、自分にとって適切であった。	○
D - 1 - 2	そうは思わない・あまりそうは思わないを選択した場合は、当てはまるものを選んでください。	4(高すぎる) 3(少し高い) 2(少し低い) 1(低すぎる)
D - 2	この授業に大変興味を持てた。	○
D - 3	この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	【専攻言語・複言語・PUT（CELP・専攻言語）のみ】
D - 4	この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	【複言語プログラムのみ】
D - 5	この授業では、SA（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。（SA等のない授業の場合は、回答しないで下さい。）	【ICTプログラムのみ】
D - 6	この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	【保健体育（スポーツ）のみ】
D - 7	この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	【保健体育（スポーツ）のみ】
D - 8	この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	【保健体育（スポーツ）のみ】
【記述式質問】		
1	授業に関する良かった点	
2	授業で改善を求めたい点	
3	その他、意見・要望等があれば自由に記入して下さい。	

【別表 2】

2024年度2期 授業改善のためのアンケート調査に対する教員アンケート

- 質問 1 「授業改善のためのアンケート調査」における「授業科目別評価結果」をどのように受け止められましたか。
- 質問 2 授業を実施していく上で、解決すべき課題があれば、具体的にお書き下さい。
- 質問 3 教育効果を高めるために、先生が特に実施している方法・工夫等がありましたら、具体的にお書き下さい。
- 質問 4 教員のファカルティ・ディベロップメントについてご意見などがございましたら、ご自由にお書き下さい。

2024年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	英米語学科	担当者	川原功司
------	-------	-----	------

1. 調査結果の概要

英米語学科に関連する調査結果は以下の5つに分類されている。分類の内訳と各回答数及び回答率は以下のとおりである。

- 1) 英米語学科における以下2)～6)の授業評価結果の総計（回答数 1,358 名、回答率 35%）
- 2) 英語基幹プログラム（PuT 除く）（回答数 439 名、回収率 46%）
- 3) 専門ゼミナール（回答数 164 名、回答率 38%）
- 専攻言語プログラム／専攻語学（PUT を除く）（回答数 583 名、回答率 28%）
- 4) 専攻英語（回答数 551 名、回答率 25%）
- 5) 専門科目群（学科基盤以外）（回答数 248 名、回答率 32%）

上記分類から、特に語学科科目である2)と4)、および学科科目である専門科目を含む3)5)を対象として項目ごとの分析をする。

2. 項目ごとの分析結果

◎ 専門ゼミナール

授業満足度の項目 A-①は 4.7 と全体平均 4.3 が高いということを考慮しても高い評価になっている。全体の数値としては理想的とも言えるが、回収率が 38%であるということを踏まえれば、授業に主体的に取り組む学生がアンケートに答えた結果でしかなく、あまり積極的ではない学生がどのような意見を持っているのかは不明確なままなのは昨年度と同様である。

◎ 専攻言語プログラム

全体的にほとんどの項目において、大学全体の平均値と同等の結果となっている。シラバスの活用についての項目以外はすべて 4.2 点以上の平均値を得ている。

教員の熱意を問う項目では 4.7 点と高評価を得ている。この評価から、教員の授業に対する熱心さと語学学習に必要な積極的授業参加の配慮について学生の満足度が見られる。4 年生を除き必修科目である点、および学科の全体数を考慮すると、毎年この平均値を維持しているのは、英米語学科における語学プログラムの成果および、教員の努力が大きく影響していると考えたいが、アンケートの回収率が 25%であるということを考えると、やはり積極的ではない学生の本音が知りたいのが昨年と同様である。なお、英語基幹プログラムに関しては全体平均とほぼ全ての項目で同じ点数であった。

◎ 専門科目群〔応用〕

授業満足度は 4.2 で全体平均より下回ったが、全体的には、ほとんどの項目において 4.1 点以上の評価を得ており、教員の熱意も 4.7 と高いことから、受講生が概ね好意的な評価をしていることがわ

かる。「B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行った。」の回答が、3.6 点なのも昨年（3.5 点）とほぼ同様である。こちらも回収率が 26%ということを考えると、積極的ではない学生の本音は分からないままである。

3. 今後の授業改善に向けて

概して授業評価アンケートの結果が高い本学だが、アンケートの結果は本年度も良好であった。全ての結果において、昨年度とほぼ変わらない。アンケートの回収率が過半数に満たないものが多いのも昨年度と同様である。FD の本義からは外れるが、授業時間ないしは試験時間の一部を使用することも場合によっては考えないといけないかもしれないが、全授業でこれだけの項目をアンケートとして問う必要がそもそもあるのかも考えなければならない。

教員コメントによれば、学生からは概ね高評価のコメントが寄せられているようである。グループワークに関しては賛否両論の意見が寄せられているようであり、意見の種類もおそらく全国の大学に寄せられているものと変わらない（e.g. 協調性を増やせた、楽しかった、私語が多い、一部の人間だけに負担、活発に参加しない学生がいる、他人と話すのが苦痛）。ただ、最近の学生は否定的なコメントを誰に対しても言わなくなってきたという傾向があるようなので、言いにくいことが教員に伝わってきていないこともあるかもしれない。

教員コメントによれば、学生による課題の負担感が大きい、履修者数が多くて負担、他の授業の様子について知りたい（参観希望）といった意見が散見される。

2024年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	英米語学科 英語教育専攻	担当者	矢後 智子
------	--------------	-----	-------

1. 調査結果の概要

英米語学科英語教育専攻に関する調査結果は以下の科目群についてである。それぞれの回答数および回答率は以下の通りである。

- 1) 学部共通英語基幹プログラム（PUTを除く）（回答数1年生56名、2年生1名、回答率62%）
- 2) 専攻言語プログラム（回答者数146名（1年生80名、2年生63名、3年生2名）、回答率44%）
- 3) 専門科目群（回答数70名（1年生40名、2年生0名、3年生18名）、回答率48%）

上記3プログラムの授業に対する満足度および評価は概ね高く、全学的な傾向とほぼ一致している。ただし「専攻言語科目」に関しては全学の平均評価を下回っていることが懸念すべき点である。また、授業に対しては多くの学生が真剣に受講していると回答しているものの、今年度は予習・復習に関して「普通」以下と回答する学生が一定数おり、この点も注目すべきである。さらに、昨年度の結果と同様に教科書・参考書等の使用に関しては未回答の学生が多く、シラバスの利用率も全学平均を下回る結果となった。授業には真面目に参加し、課題等にも比較的誠実に取り組んでいる姿勢は見られるが、教科書や参考書を用いた自主的な学習、あるいはシラバスを活用した計画的な学習の姿勢の育成が今後の課題であると感じられる。なお、今回の調査の回答率は昨年度よりも低く、40～60%にとどまっている。正確な分析を行うためには、回答率を上げて、継続的な調査を行う必要があると考えられる。

2. 項目ごとの分析結果

○ 専攻言語プログラム/専門科目群

専攻言語プログラムの授業に対する満足度(A-1)については回答者146名中107名(73%)が「満足している」と回答している一方で、「普通」以下と回答した学生27%おり、つまり回答者のおよそ4人に1人が満足していないことになる。その理由については、授業内容に関する設問(C-①～⑥、D-①②)の結果に一因があると推測される。特に、教員による授業運営(私語への対応や学生の授業参加への配慮)について、見直しの必要性を感じる。また授業の進度やレベルも満足度に大きく影響している可能性が高い。とりわけ1年次においては入学時の英語力の差がこのような評価につながっていると考えられ、こうした学生への適切なサポート体制の構築が今後の課題となる。こうした授業改善を通じて、授業に興味を持てない学生の数が減ることを期待する。一方、専門科目群に関しては、「授業の進度が適切でない」と回答した学生が回答者全体の3割にのぼり、これは懸念すべき点である。主な理由は「進度が遅い」との回答であり、大学での授業に慣れている3年生の回答も多いことから、授業内容と同様に進度についても十分な配慮が必要である。こうした点について教員間で意識の統一と共有をしていきたい。

3. 今後の授業改善に向けて

授業に積極的に参加する学生は多い一方で自主的に学習に取り組む姿勢には欠ける印象を受ける。いずれの評価も確実な要因の断定は難しいが、自律的な学習態度の育成に向け専攻内で情報を共有し建設的な議論に役立てたい。また同時に教員の授業改善にも継続的に取り組んで行く必要があると考える。

2024年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	フランス語学科	担当者	武井由紀
------	---------	-----	------

1. 調査結果の概要

フランス語学科の全体的な集計結果については、四学部全体の全授業にかかわる集計結果を示す「全体平均」と比べた場合、「シラバスを活用した」については全体平均より0.2ポイント低いものの、「開始時間、終了時間は守られていた」は2023年度の集計結果と同値を示す結果だった。一方で、「満足度」「興味が持てたかどうか」「授業を履修して目標とされている外国語の能力を伸ばすことができた」については、いずれの項目も「全体平均」よりもフランス語学科の値が0.3ポイント高かった。さらに、「分かりやすさ」、「授業の進度の適切さ」でも、「全体平均」よりフランス語学科の値が0.2ポイント高く、「授業のレベル」もフランス語学科の値の方が0.1ポイント高い結果が示された。これらのことから、今回2024年度の結果としては、前年度よりも総じて高い評価が得られたことが指摘できそうである。

また、系列ごとに「満足度」に注目してみると、「専門科目群」では全学の「全体平均」よりもフランス語学科の平均の方が0.5ポイント高く、「専門ゼミナール」ならびに「フランス語PUT」では、全学の「全体平均」よりもフランス語学科の平均の方が0.4ポイント高く、「専攻言語プログラム」でも学科平均の方が0.3ポイント高い数値、そして「学科基盤」では学科平均の方が0.1ポイント高い数値を示しており、昨年度に比べて全体的にとっても積極的な評価が得られたことが分かる。

2. 項目ごとの分析結果

「専攻言語プログラム」では、「満足度」、「授業の進度の適切さ」、「学生が積極的に授業参加できるような配慮」、「授業のレベル」、「授業に大変興味を持てた」、「教員の熱意」、「授業により履修した言語の文化への興味を持つことができた」の項目においては、いずれも「全体平均」を上回っている。初習言語としてフランス語を学ぶ学生に対し、学科全体で様々な情報共有をしながら、段階的な履修が実現できるよう努力を重ねているため、今回の結果においてもその効果が反映されたのではないかと捉えられる。「授業のレベル」については、昨年度はフランス語学科の数値が大学全体の平均値よりも0.1ポイント下まわっていたが、今回は逆に0.1ポイントフランス語学科の数値が上回っており、状況の改善が読み取れる。一方で、「開始時間、終了時間は守られていた」では、大学全体の平均値よりもフランス語学科の数値が0.1ポイント下まわっているため、学科内で注意喚起を促したい。

「専門ゼミナール」については、23年度の結果では、「満足度」、「授業の進度の適切さ」で「全体平均」と同じ評価を得るに留まっており、「興味が持てたかどうか」では「全体平均」より0.2ポイント下回る結果が示されていた。しかし今回24年度の結果では、「満足度」が0.4ポイント、「授業の進度の適切さ」が0.3ポイント、そして「興味が持てたかどうか」でも0.3ポイント、学科の数値の方が高かった。このことから、「専門ゼミナール」の評価が前年と比べて大きく改善されたことが示された。

「専攻言語プログラム」の一部でもある「PUT」の結果に着目すると、例年総じて学生の評価は高いものの、昨年23年度では「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」では0.1ポイント、

「授業に大変興味を持てた」では0.2ポイント、「全体平均」を下回っていた。しかし今回、「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」では0.3ポイント、「授業に大変興味を持てた」では0.4ポイント、「全体平均」を上回ったことから、こちらも教員側の努力の成果が反映されたのではないかと考える。

3. 今後の授業改善に向けて

2024年度2期の結果を総合的に評価すると、23年度の結果を全体的に上回る評価がとて多く得られたことが確認できるが、これに満足することなく、引き続き学科一丸となって学生指導に努めたい。一方で、1.と2.で述べたように、「開始時間、終了時間は守られていた」については、系列によって全学の「全体平均」よりも低い評価が示された。これについては対処方法が明確であることから、学科内で情報を共有し、今後の改善に向けて取り組んでいきたいと考えている。

2024年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	中国語学科	担当者	劉 綺紋
------	-------	-----	------

1. 調査結果の概要

全体を通して、全体平均とほぼ変わらない評価結果が得られている。ただし、アンケートへの回答率が低いことから、今後は授業への満足度や改善点をより詳細に把握するために、授業で回答時間を設けるなど、学生に対し積極的な回答を促したいところである。

回答数の中で特筆すべきは、「専攻言語プログラム」と「専門科目群」（学科基盤）と「英語基幹プログラム」への24生の回答数の高さが際立っている。一年次の担当教員が効果的に学生のアンケートへの回答を促したことが推察され、これら3種類の科目のアンケート結果はより正確に実情を反映していると考えられる。そして、これら3種類のいずれに対しても学生の満足度は高い。

「専攻言語プログラム」と「専門科目群」（学科基盤）に対する学生の満足度の高さから、学科教員の熱意と授業内容や方法についての様々な工夫が背景にあるとうかがえる。今後も現在行っている教育方針に則り、工夫を重ね、学生の中国語能力向上に努めたい。

また、「英語基幹プログラム」に対する学生の満足度の高さから、本学科生が英語力のさらなる向上に励んでいることが明らかとなっている。

以上のことから、本学科が目指す教育目標は概ね達成できたと判断する。今後も、学生が各講義内容に更に興味を持ち、積極的に授業に参加し、自主的に学習に臨めるよう、学科教員全体で研究・教育に励んでいきたい。

2. 項目ごとの分析結果

「専攻言語プログラム」のB-5「この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した」：この項目は全体平均より0.4ポイント高い4.6との結果を得た。そのことから、教材が授業にしっかり組み込まれており、教員が使い方を丁寧に指導していることが推察される。今後も教科書や参考書を学生が十分に活用し、中国語を習得していけるよう、指導に務める。

「専門科目群」（学科基盤）のC-⑤「授業中の私語には適切な処置がとられていた」：評価の値は前回よりも高くなった。教室環境がよりよくなったことで、学生の学習効果の向上につながっただろうと推測できる。

3. 今後の授業改善に向けて

まず、今後更にアンケートの回答率を上げ、より正確に学生の授業に対するニーズ、満足度を把握することが重要な課題である。

それでも今回のアンケート結果から、教員各自がそれぞれ授業内容に工夫を凝らし、その結果学生が積極的に授業に参加し、語学力アップを実感していることがうかがえた。引き続き、学科教員一丸となって、専門教育にますます力を入れていきたい。

2024年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	現代英語学科	担当者	福島みのり
------	--------	-----	-------

1. 調査結果の概要

全体的に、授業の満足度が 4.2（5点満点）とかなり高い。具体的に見てみると、教員の場合、教え方（4.4）、授業への熱意（4.7）、学生への配慮（4.3）など殆どが学生から高い評価を得ている。学生の場合も、授業に対する真剣な態度や高い目標意識を持っており（4.4）、一段と成長したと判断できる。

「PUT（パワーアップチュートリアル）」（4）の授業満足度は、前年度の調査で4.8であった。今年度は4.4で少し下がったものの、依然、学生の満足度が高い。名古屋外大の特長が発揮できていると判断できる。現代英語学科の専門科目群（11）は満足度が 4.7 で、学生の満足が最も高かった科目群であるが、残念ながら回答率が 18%で、回答数はわずか3名だった。

全体的に、前年度の調査と同様、アンケート調査の回答率が非常に低い。全体統計を見てみると、受講者数 1,299 人のうち、回答が 419 件で、回答率はわずか 32%にとどまっている。現代国際学部共通のエリアスタディーズ（9）の授業の場合、受講者数 314 名のうち回答者数は 26 件で、回答率は 8%に留まっている。回答率を上げるための特段の措置が必要であるといえる。

2. 項目ごとの分析結果

アンケート項目の中で、前年度最も平均点が低かった項目を分析した。B-③「この授業の登録前または履修中にシラバスを活用した」の平均点は、3.3 で相変わらず著しく低い。B-4「この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった」の現代英語学科の平均点は3.9で、他の項目と比較すると依然低いが、前年度と比べるとかなり上昇した。B-③の場合、学生が依然シラバスの概念や活用方法についてきちんと把握していないため、こうした結果が出たのではないかと推測される。シラバスは、授業の全体像は無論、事前の準備や授業の進み方、最後の課題まで把握する上で欠かせないものであることを学生にきちんと伝える必要がある。

B-4 の場合は、アンケートでの質問として適切かどうかが問題ではないと思われる。自己アピールに弱い日本の学生に、「予習、復習などを積極的に行なったか」という項目に対し、普通以下にマークする可能性が高い。「予習、復習にどのくらい時間を費やしたのか」を問う項目に修正した方がより客観的で回答しやすいのではないと思われる。

次に、現代国際学部共通科目の「Basic English、Step-Up English/ Applied English」（8）の回答の中で、D-4「この授業により、複言語で履修した言語の文化へに興味を持つことができた」については平均点が 3.6 で、回答が 44 件、未回答が 54 件になっており、この質問の趣旨が理解できてなかった学生が多かったことが予想される。

3. 今後の授業改善に向けて

学生のアンケート回答に対して、科目の担当教員からフィードバックをまとめてみると次のようになる。まず、今回のアンケート調査の回答率が非常に低いことを指摘し、講義・教員評価として使用できる資料なのかについて疑問を感じる教員が多いのではないと思われる。

担当教員が授業で感じている主な課題は、「人数が多い」「座席指定の問題」「学生の私語・雑談問題」「課題の提出問題」「予習復習の不足」「できる学生とできない学生の差」「オンライン授業の問題：消極的な参加やコミュニケーション問題」「学生の日本語能力の低下」などであった。

教員側の回答からは、「学生の積極的な授業参加を促す方法」に関する様々な課題が見られたが、「ディスカッションや発言の機会を可能な限り設ける」、「リアクションペーパーなどを積極的に活用する」、「受講者同士が協力・協働して取り組む課題を提示する」など、授業改善に積極的な姿勢が見られることが明らかとなった。

教員のファカルティ・ディベロップメントについて、多くの教員がお互い授業を参観できる機会を望んでいるとの意見が見られたが、こうした取り組みは大学レベルではそう容易ではない。授業改善に関して教員同士お互いに学び合うプログラムなどを促進する政策が必要なのではないだろうか。

2024年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	グローバルビジネス学科	担当者	大浜賢一朗・原慎之介
------	-------------	-----	------------

1. 調査結果の概要

全体の回収率について、昨年度の17%と比較すると、全学年で28%と改善が見られた（2022年度は約27%）。しかしながら、回答のほとんどが23・24生（1・2年生）であることは変わらず、特に専門科目が中心となる3年生以上の傾向を正しく評価することは困難である。

全体平均と比較した学科平均の傾向として、授業満足度（A）、受講態度（B）、授業方法（C）、授業レベルや授業への関心（D）のいずれにおいてもほぼ一致していた。一方授業科目の区分別にみると、PUTについては比較的満足度が高いことが伺えたが、グローバルビジネス科目についてはやや難しいと感じている学生が多いよう見受けられる。

2. 項目ごとの分析結果

○回収率について

のべ受講者数1,518人に対して428件の回答があり、回収率は28.2%であった。2023年度の17.4%と比較すると大きく改善しているが、2022年度は26.8%であったことを踏まえると、おおよそ例年通りに戻ったと考えられる。ただし、24生の回答が全体の約8割を占めており、23生以上の回答がかなり少なかった点に留意する必要がある。特に専門科目の履修が増える2年生以上の状況を正確に把握するため、継続的に回収率を高める取り組みを講じる必要がある。

○全体集計

A（授業満足度）

全体平均、学科平均いずれも4.3ポイントであり、変わらない値であった。

B（受講態度）

Bの各項目において、全体平均と ± 0.1 ポイントの差しか見られず、ほぼ変わらない値であった。

B-③（シラバスの活用）について、前年度の学科平均3.4ポイントに対して今年度は3.8ポイントとなり、大きく改善した。

C（授業方法）

Cの各項目について、全体平均と変わらない値であった。

D（授業への関心）

Dの各項目について、全体平均とほぼ変わらない値であった。

○区分別

・アカデミックスキルズプログラム

B-⑤（教科書の活用）、C-①（進み具合）について、全体平均よりもやや低い値となっていた。ただし、進み具合については早いと回答している学生もいれば、遅いと回答している学生もいるため、個別の学生に対するケアが求められる可能性がある。その他の項目については、おおよそ全体平均

と同様の傾向であった。

- ・英語基幹プログラム

ほとんどの項目で全体平均と同程度の水準であった。

- ・PUT

A から D のほとんどの項目で全体平均を 0.3-0.4 ポイント程度上回っており、学生の満足度が非常に高いことがうかがえる。また、回収率が 91%と非常に高かった点も特筆すべきである。

- ・その他英語科目 (Basic English ほか)

ほとんどの項目で全体平均と同程度の水準であった。

- ・専門基礎科目

B-③ (シラバスの活用) について、全体平均よりもやや高い値であった。その他の項目については概ね平均と同程度であった。

- ・グローバルビジネス科目

B-③ (シラバスの活用) について、全体平均よりもやや高い値であった。一方で、B-④ (予習復習)、B-⑤ (教科書の活用)、C-① (進み具合)、C-③ (開始・終了時間)、C-④ (教員の熱意)、C-⑥ (参加の配慮)、D-① (授業のレベル)、D-② (授業への興味) など多くの項目で、全体平均を 0.3 ポイント程度下回っており、特に B-⑤ (教科書の活用) については 0.9 ポイント低かった。なお、当該区分の回収率は 16%であり、その約 7 割が 23・24 生による回答であった。

- ・Cultivating Business Perception in English / Business in English

B-③ (シラバスの活用)、B-④ (予習復習)、B-⑤ (教科書の活用) について、全体平均よりも 0.3 ポイント程度低い値であった。一方で C の項目についてはほぼ全て全体平均を 0.1-0.2 ポイント上回っていた。

○教員コメント

- ・全体として、好意的な反応が多かったとの感想を述べているものが多かった。
- ・課題としては、学生の意欲喚起、ネット検索や AI、翻訳アプリに頼りすぎないようにする工夫、個々の学生に合わせた講義の必要性が指摘されていた。
- ・教育効果を高める工夫として、プレゼンテーションやディスカッションの実践、フィードバックの提供などに取り組まれていた。

3. 今後の授業改善に向けて

アンケートの回収率について、前年度は著しく低い値であったが、2022 年度以前の水準に回復することができた。しかしながら、全体としては以前 1/3 以下の水準であり、さらなる改善が求められる。

回答内容について、前年度に引き続き PUT は非常に満足度が高いことが示唆されたが、他の多くの科目についても同様に満足度を高められるような取り組みが求められるだろう。学科の専門に関する英語の科目 (CBPE) については概ね全体平均並みの傾向であったが、グローバルビジネス科目については相対的に満足度が低かった点に注意する必要がある。ただし、例年通りの傾向ではあるが、教科書の利用については金額の制約があり、講義で使用したい専門書をテキストとして使用することが難しく、各教員が独自の講義資料を作成している結果であることに留意すべきであろう。また、個別の学生の要望に完全に対応することは困難であるが、今後の課題として検討したいと考える。

2025 年 7 月提出

授業改善のためのアンケート調査（2024 年度）－学科分析結果

組織名称	国際教養学科	担当者	根無一信
------	--------	-----	------

1 全体的な傾向

評価項目のうち、平均値から±2以上の開きがある項目の数に着目し、科目全体に何らかの傾向があるかどうかを分析する。結果は以下の表にある通り。

	学年	+2以上の項目数	-2以下の項目数
アカデミックスキルズ	1	3	4
英語基幹プログラム（PUT 以外）	1	0	5
PUT	1	12	1
Basic English、Step-Up English	1, 2	1	7
専門基礎科目	1	3	9
専門科目	1, 2, 3	8	1
LIBERAL ARTS GLOBAL STUDIES IN ENGLISH	2, 3, 4	5	1

明らかに初年次における評価が低く、2年次以降は高くなることがわかる。初年次で例外的に高評価を得ているのは「PUT」であるが、「Basic English、Step-Up English」と「専門基礎科目」が低評価であることに鑑みると、学生が何を求めているのかがよくわかる結果であるといえるだろう。初年次の段階ではまだ学部生・学科生としての自己意識が低く、大学に「英会話教室」であることを求めていると見ることができそうであるが、2年次以降はこの意識が変わっていき、「大学」という場における学びを充実化させていく傾向が読み取れる。

2 個別の観点からの分析

次に、特に平均値からの開きが大きかった項目（±5以上）に着目し、改善点や評価すべき点をあぶり出す。

●アカデミックスキルズ

B-5 この授業で指定された教科書、参考書を十分に活用した。（－5）

C-④ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。（－7）

D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。(－7)

●専門基礎科目

B-② この授業には、真剣な態度で受講した。(－5)

B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行った。(－4)

C-①-1 授業の進み具合は適切であった。(－6)

C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。(－5)

D-② この授業に大変興味を持てた。(－5)

●LIBERAL ARTS GLOBAL STUDIES IN ENGLISH

B-4 この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。(＋6)

D-② この授業に大変興味を持てた。(－5)

平均値から±5以上の開きが出た項目があったのは上記3科目である。初年次必修の「アカデミックスキルズ」と「専門基礎科目」が低評価であるのは、第1節で論じた通りだろう。

「大学生」としての自己意識が低いゆえの結果であると理解されるため、これはすぐにどうこうなる問題ではないが、「B-5 この授業で指定された教科書、参考書を十分に活用した」や「C-④ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた」といったすぐに改善可能である項目もあり、この評価を次年度の授業運営に活かしたい。

他方、2年次以降に履修することになる「LIBERAL ARTS GLOBAL STUDIES IN ENGLISH」では、第1節でみたように全体としては平均以上の評価を得ており、学生は休まず真剣に出席し(B-①、B-②はともに＋2)、教員の熱意(C-④は＋1)や学生への配慮(C-⑥は＋2)も評価されてはいるものの、「D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった」では－3である点を見落とすわけにはいかない。学科全体における英語力の低さを指摘することができるだろう。

3 まとめ

国際教養学科の学生として、初年次における低い自己意識が2年次以降に高まっていく様子を見ると、国際教養学科の教育方針は間違っていないといってよいだろう。ただし、英語力の低さについては、このままでよしとするわけにはいかない。26年度からの新カリキュラムでどのような成果が上がるかを確認することがまずは重要になるだろう。引き続き注視していきたい。

2024年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	世界共生学科	担当者	西村 木綿
------	--------	-----	-------

1. 調査結果の概要

昨年と同様、世界共生学科全体の質問回答集計表から、どの質問項目についても、大半の学生が「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」を選択している。全学の平均と比較した場合にも、平均値について大きな差異はないことがわかる。

B-③「この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した」という項目については、「普通」「あまりそうは思わない」「そうは思わない」と回答した学生の割合が合わせて5割超に上ることから、シラバスの活用の仕方が学生および教員の間で共有されていないということがうかがえるが、必修科目などあらかじめ履修登録されている科目については、「登録前」の利用は期待できないことから「あまりそうは思わない」「そうは思わない」が多い可能性も考えられる。

全体にアンケートの回収率が低かったが、比較的多く（半数超）の回答が得られたPUTを除く英語基幹プログラム（43%）では、専攻言語プログラム（43%）教員の授業方法への高い評価が伺われた。同様に回答率の比較的高かったリージョナル・スタディーズ（56%）、アカデミック・スキルズ（48%）については、授業進度や学生の積極的な授業参加について、改善の余地が見られた。

講義形式が多い科目群（リージョナル・スタディーズ、コース科目／グローバルメディア科目）では、概ね順調に行われていることが伺われたが、アンケート回収率が20%以下であり、有効な分析を行うことは難しい。

2. 項目ごとの分析結果

① 英語基幹プログラム（PUTを除く）

A-①「この授業は、全体として満足であった」、B-①「この授業には、休まずに出席していた」、B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」といった項目では、「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」の選択数が4割程度であり、「普通」を合わせると7～8割程度にそうすることから、学生が授業の内容に興味を持ち、それなりに真剣に授業に取り組んだことがうかがえる。C-②「教員はわかりやすく説明していた」、C-③「授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた」、C-④「教員は授業に熱意をもって取り組んでいた」については「とてもそう思う」を選択した学生が全体の6～7割超であり、教員の指導に対する学生の評価は総じて高いといえる。

アンケート回収率は回収率は52%である。

② PUT

①「英語基幹プログラム」と同様、どの項目も「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」の回答がほとんどを占めている（例外はB-3「この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した」であり、ほとんどの学生がシラバスを活用していない。クラス指定科目であるため開講前にシラバスを確認する必要を感じていないものと思われる）。学生が授業の内容に興味を持ち、真剣に授業に取り組んだことがうかがえる。また、教員の説明、授業の開始・終了時間、教員の授業への熱意、私語への適切な処置、

学生の授業への積極的参加など、授業内容および教員の努力に対する学生の評価は全体の平均値と比べて+0.2～0.5ポイントと非常に高い。

ただ、アンケート回収率は18%（11人）と低いため、参考程度にとどめるべきである。

③ 専攻言語プログラム

A-①「この授業は、全体として満足であった」、B-①「この授業には、休まずに出席していた」、B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」といった項目では、「とてもそう思う」と「ややそう思う」が全体の7～8割超を占め、学生が授業の内容に興味を持ち、真剣に授業に取り組んだことがうかがえる。

教員の説明、授業の開始・終了時間、教員の授業への熱意、私語への適切な処置、学生の授業への積極的参加など、授業内容および教員の努力に対する学生の評価も、全学平均と比較して0.2～0.4ポイント高い数値が出ている。

D-④「この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた」については、137件（57%）が未回答である。専攻言語（本学科では英語）と複言語で履修した言語の文化との関係性が想定できずに未答という可能性が考えられる。そもそも質問の意図は何であろうか？ 検討が必要かもしれない。

アンケート回収率は43%である。

④ アカデミックスキルズプログラム

B-①「この授業には、休まずに出席していた」、B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」、B-④「この授業に関して予習、復習などを積極的に行った」では、「とてもそう思う」「ややそう思う」が8～9割を占め、学生がこの授業に真剣に取り組んだことが伺える。これらに比して、A-①「この授業は、全体として満足である」は「とてもそう思う」「ややそう思う」が7割であり、決して少ないとはいえないものの、前者に比して見劣りする結果となっている。全体平均と比べても0.3ポイント低い。楽しさよりも義務感がやや勝る傾向があるといえるかもしれない。

C-④「教員は授業に熱意を持って取り組んでいた」については「とてもそう思う」「ややそう思う」が合わせて95%程度の高い評価が得られている。

D-①「この授業に大変興味をもてた」については「とてもそう思う」が3割程度、「ややそう思う」が4割弱、「普通」が2割弱である。数値としては悲観するほどではないにせよ、全体平均より0.5ポイント下回っているのは気がかりである。

A-①、D-①の結果と関連する可能性が伺える項目としては以下が挙げられる。

C-②「教員はわかりやすく説明していた」では「普通」「あまりそう思わない」「そう思わない」が2割弱であり、全学平均を0.3ポイント下回っている。

C-③「授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた」について、「あまりそうは思わない」「そうは思わない」が5割弱であり、全学平均を1.1ポイント下回っている。

C-⑥「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」では「あまりそうは思わない」「そうは思わない」と答えた学生は2名であるが、全体平均を0.3ポイント下回っている。

アンケート回収率は48%であり、一昨年度の昨年度の回収率77%を大きく下回った（昨年度は45%）。そのため、一昨年度、この結果から妥当な結論を導くことは難しい（たとえば、D-①-1「授業のレベルは自分にとって適切で合った」の派生項目D-①-2では「少し高い」「少し低い」がそれぞれ1名であるが、この結果をどう捉えるかは、48%の回収率では判断が難しい）。ただ、授業の開始・終了時刻と説明

の仕方について改善が求められることは確かである。

⑤リージョナルスタディーズ

A-①「この授業は、全体として満足であった」で「とてもそう思う」「ややそう思う」が回答の7割超を占めている。D-②「この授業に大変興味を持てた」についても、同様に7割弱を占めている。B-①「この授業には、休まずに出席していた」、B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」についても、回答者の6割超～7割超は上記2回答を選択している。一方、B-4「この授業に関して予習、復習などを積極的行なった」については、上記2回答の選択率は5割と低い。この項目は、全体平均に比して0.5ポイント低い数値となっている。

教員の努力を問うCの項目については、C-①-1「授業の進み具合は適切であった」について、全体平均を0.6ポイント下回っている。「そうは思わない、あまりそうは思わない」を選択した回答者のうち、1人が「早すぎる」、9人が「少し早い」を選択しており、学生の理解度に合わせた授業進捗の見直しが求められる。これ以外のCの項目では、全体平均とほぼ相違がないが、C-⑥「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」については「あまりそうは思わない」「そうは思わない」がそれぞれ4名、1名おり、全体平均を0.4ポイント下回っている。リージョナルスタディーズの科目は講義形式をとるため、致し方ない部分もあるが、全学平均との差を考えると、なんらかの工夫の余地があると言えそうである。

アンケート回収率は56%である。

⑥コース科目／グローバルメディア科目

アンケートの回収率が17%と低いため参考程度にとどめる必要があるが、学生の満足度と取り組みにおける積極性を問うA、Bの項目、教員の取り組みを問うCの項目、ならびにD-②「この授業に関心を持てた」のほとんどの項目で「とてもそう思う」「ややそう思う」が回答の80%以上を占めており、おおむね順調に授業が行われていることが見てとれる。全体平均との差もほとんど見られない。

3. 今後の授業改善に向けて

アンケート分析結果を学科会議で共有し、改善が求められる部分について周知、協議したい。

2024年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	世界教養学科	担当者	平山陽洋
------	--------	-----	------

1. 調査結果の概要

[1] 回収率

- 全体の回収率が38%であり、高いとはいえない。
cf. 2023年度2期34% (PuT回収率26%から67%に大幅改善された影響大)
- 学科科目の回収率は、「専門ゼミナール」が13%、「コース科目(2～4年次科目)」が21%、「専攻言語プログラム」が41%。学部科目の「ブリッジ科目」が12%。全学プログラム科目の「PuT」が67%、「英語基幹プログラム(PuTを除く)」が35%。回収率67%の「PuT」、回収率41%で1、2年次については回収率の高い「専攻言語プログラム」以外は、正確な評価とするには難がある。

[2] 授業評価

- 学科科目「専門ゼミナール」は全体平均より高く、「専攻言語プログラム」と「コース科目(2～4年次科目)」は全体平均並みである。ただし、それぞれの科目の回収率から、「専攻言語プログラム」(とくに1、2年次)以外は、評価として参考にならない(「専門ゼミナール」は回答者5名であり、全く参考にならない)。
- 学部科目の「ブリッジ科目(1年次科目)」は、全体平均をかなりの程度上回っている。ただし、回収率が低く、かつ、回答者2名のため、評価として全く参考にならない。
- 全学プログラム科目では、「PuT」が全体平均よりもやや高く、「英語基幹プログラム(PuTを除く)」が全体平均並みである。ただし、それぞれの科目の回収率を考えると、「PuT」のみ、評価として参考になる。

2. 項目ごとの分析結果

[1] 専門ゼミナール

- 回答者5名。
- 「5」の評価が多く、「5」以外は、「授業登録前、履修中にシラバスを活用した」が4.6、「予習・復習を積極的におこなった」が4.8、「私語に適切な処理がとられたか」が4.6。いずれも、全体平均より大幅に高い。

[2] コース科目(2～4年次科目)

- 回収率21%(受講生数201人に対し回答者42人)。
- 学生自身の授業への取り組みに対する評価(B質問群)、教員の授業の内容や運営に対する評価(C質問群)のいずれも、全体平均並み。

[3] ブリッジ科目(1年次科目) ※ 世界教養学部科目

- 回収者2名。
- 「5」の評価が多く、「5」以外は、「授業の開始時間、終了時間が守られていたか」が3.5、「授業のレベルが自分にとって適切だったか」が4.5。

[4] 専攻言語プログラム

- 回収率41%(受講生数974人に対し回答者395人)であり、学生全体の感想を反映しているとはいえない。1、2年次生の回答者は多く、それぞれ、回答者の延べ人数が、142人、140人である。1、2年次の回収率は一定程度高いと予想され、1、2年次学生全体の感想を、一定程度反映していると想定されうる。
- 学生自身の授業への取り組みに対する評価(B質問群)、教員の授業の内容や運営に対する評価(C質問群)、授業で得たものの評価(D質問群)のいずれも、全体平均並み。

[5] 英語基幹プログラム(PuTを除く)

- 回収率35%(受講生数306人に対し回答者107人)。
- 学生自身の授業への取り組みに対する評価(B質問群)、教員の授業の内容や運営に対する評価(C質問群)のいずれも、全体平均並み。

[6] PuT

- 回収率 67%(受講生数 97 人に対し回答者 65 人)。
- 学生自身の授業への取り組みに対する評価(B 質問群)、教員の授業の内容や運営に対する評価(C 質問群)のいずれも、全体平均並み。

2024年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	国際日本学科	担当者	マルシャレンコ ヤコブエリック
------	--------	-----	-----------------

1. 調査結果の概要

国際日本学科に関する調査結果の概要及び各科目系列に対する各回答数・回答率について以下で示す。

- 1) 国際日本学科の全体として、回答数は267名であり、対象受講者962名に対して回答率は28%であった。24生（当時1年時）の回答数が203名と最も多く、22生の37名がそれに次いでおり、23年生は13名、21生以前以下は5名、その他は9名との順になっている。
- 2) 全体的に見ると、授業に対する学科生の満足度の平均が4.4となっており、全体の数値（4.3）をわずかながら上回っている。
- 3) **英語基幹プログラム（PuTを除く）**：回答数65名、対象受講者146名に対して45%の回答率。
- 4) **PuT**：回答数37名、対象受講者49名に対して76%の回答率。
- 5) **専攻言語プログラム**：回答数130名、対象受講者480名に対して27%の回答率。
- 6) **専門科目群（学科基盤除く）**：回答数32名、対象受講者263名に対して12%の回答率。
- 7) **専門ゼミナール**：回答数3名、対象受講者24名に対して13%の回答率。
- 8) **専門科目群（世界教養ブリッジ科目）**：回答数2名、対象受講者17名に対して12%の回答率。

2. 項目ごとの分析結果

本節では、回答率が比較的高かった科目系列として、上記1) 英語基幹プログラム（PuTを除く）、2) PuT、3) 専攻言語プログラムを取り上げ、その調査結果について詳述する。

① 英語基幹プログラム（PuTを除く）

授業満足度（A-①）は、平均で4.2となっており、全体の4.3をわずかに下回っている。項目C-②の回答から分かるように、教員による説明の分かり易さについて「とてもそう思う」と「ややそう思う」との回答が多い（それぞれ38名と13名）。また、C-④「教員授業に熱意を持って取り組んでいた」との問いに対して、「とてもそう思う」が39名、「ややそう思う」が18名と教員の態度が非常に高く評価されている様子が窺える。ところが、Dの項目群に対してD-②を除き、すべてが未回答であり、授業がどれだけ学生の英語能力向上につながったかと思っているかは不明である。さらには、回答率が45%と対象受講者の半分を下回っていることは課題と言えよう。

② PuT

本学科の全アンケートにおいてPuTに対する回答率が最も高く、76%となっており、学科においてPuTの重要性及び学生の高い関心が窺える。本学科生の授業に対する満足度が4.8と高く、全体の4.3を大きく上回っていることが顕著である。また、教員の評価（項目群のC）も比較的高く、「あまりそう思わない」との回答は、C-③（授業開始及び終了の時間）のみだった（回答数1名）。さらには、D項目群のうち、D-②（「授業に大変興味を持った」）やD-3（英語能力向上に関する項目）に対して高評価とな

っており、それぞれ 4.6 と 4.5 で、全体平均（いずれの項目に対して 4.3）を上回っていることに注目されたい。一方、上記以外の D 項目に対する回答数がいずれ「0」となっており、今後、回答数は改善が必要であろう。

③ 専攻言語プログラム

本分析で取り上げる 3 系列のうち、本系列が最も低い回答率（27%）となっているが、回答数は 130 名と決して少ないとは言えない。満足度は 4.3 となっており、大学全体と同等である。C の項目群において教員の評価も高いが、上記系列の①及び②と対照的に、「普通」、「あまりそう思わない」、「そうは思わない」との回答もあることが少し目立つ。特に低評価の項目として、教員による説明の分かり易さ（C-②）、私語への処置（C-⑤）、積極的な授業参加への配慮（C-⑥）が挙げられるが、いずれも数名程度の回答者であり、大学全体の平均と同等なレベルにある。D の項目群にも過半数の学生が高評価しているが、低評価の項目もある。特に D-3（外国語能力を伸ばすことができたか）に対して、「あまりそう思わない」及び「そうは思わない」と合計 10 名が回答している。また、D-4 の「この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた」との問いに対して、84 名も未回答だったことが目立つ。

3. 今後の授業改善に向けて

本学科生の調査結果は、大学全体の満足度とはそれほど変わらず、科目系列によっては異なるが、概ね高い水準になっている項目が多かった。教員の評価も比較的高く、授業は学生の成長につながっていることを期待できると言えよう。一方、低評価の項目もあったが、それはむしろ、学生たちは自分の教育にきちんと関心を持ち、真面目に取り組んでいることの証拠と言えるかもしれない。

ところが、本学科に限らず、大学全体の課題としてはやはりアンケートにはばらつきはあるが、低い回答数及び回答率であろう。例えば、上記の 1 で既述の通り、7) 専門ゼミナールや 8) ブリッジ科目のアンケートに対する回答率がそれぞれ 13%（3 名）と 12%（2 名）と著しく低い。したがって、大学全体として回答率を上げることが急務といえよう。例えば、授業中にアンケート回答の時間を設けるといった案も出ているようだが、学習成果に悪影響を及ぼさない限り、導入すべきではないだろうか。

2024年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	CLED	担当者	古村由美子
------	------	-----	-------

対象：外国語学部、世界教養学部、現代国際学部、世界共生学部 CE、LC、TTI

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度 2023 年度は 4.4 であったが、2024 年度は 4.3 であり、前年度よりも評価が少々さがった。しかしながら、全体平均と同じ評価であった。

回答率については、昨年度の 46%であったのに対して、2024 年度は 49%となり微増した。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均よりも評価が下回った項目は 8 項目であったが、0.1 か 0.2 の微差である。他の 6 項目では、全体平均と同じであり、全体平均よりも上回る項目はなかった。各項目の評価では、2023 年度は全体の平均を下回る項目は 1 項目であったため、2024 年度は昨年よりは少々低くなったと言えるが、大きな問題となる程度ではない。

3. 今後の授業改善に向けて

C-①-2 は、C-①-1「授業の進み具合は適切であった」の問に対して、「早すぎる」(8 名)、「少し早い」(37 名)、「少し遅い」(6 名)、「遅すぎる」(6 名)という結果を示している。本集計は 4 学部全体の回答数 (1,201 名) から出てきた数字であるため、それほど大きな割合ではないかもしれないが、昨年度よりも進み具合について、不満足である学生数は増えている。今後進度に関しては、学生の学習の状況を見ながら教員が調整することが必要と思われる。

D-①-1「授業のレベルは、自分にとって適切であった」の問に対して、「高すぎる」(7 名)、「少し高い」(37 名)、「少し低い」(20 名)、「低すぎる」(6 名)という結果を示している。前年度の結果では、「高すぎる」が 11 名であり、今年度は 7 名へ減っている。また、前年度は「低すぎる」が 2 名で、今年度は 6 名へ増えていることを鑑みると、レベルの高い学生が前年度より増えたのかもしれない。CELP の科目によっては、上級者クラスを創設して、上位レベルの学生対象とそれ以外の学生対象のクラスを別に創設することが適切かもしれない。それにより学生のレベルにあった指導法を適用できると思われる。

対象：外国語学部、世界教養学部、現代国際学部、世界共生学部 PUT (全体集計)

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、4.6 であり全体平均よりも 0.3 高かった。

全体平均を下回った項目は 2 項目であり、B-①、B-③であった。それ以外の項目は全体平均を上回った。この結果から、PUT が学生から高く評価されていることがわかる。さらに前年度の回答率は 33%であったが、今回は 68%に上昇したことは評価できる。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を下回った項目は2項目であり、「この授業には、休まず出席した」が全体平均から0.1低く、「シラバスを活用した」が全体平均から0.3低かった。全体平均より0.4以上高かった項目は、C-①-1「授業の進み具合は適切であった」であった。少人数制であるため、教員は受講生の状況をよく把握できることがその要因であると考えられる。

3. 今後の授業改善に向けて

PUTは4名の学生に対して教員1名という、語学学習として理想的な授業形態である。NUFSの英語教育プログラムの特徴を示す代表的科目として、今後も現在の状況が存続することを期待する。

対象：英米語・英語コミュニケーション専攻 CELP（除 PUT）

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」については、4.3であり全体平均4.3と同じであった。全体平均を下回った項目は4つあり、B-②、B-5、C-⑤、C-⑥であった。全体平均より大きく下回ってはいないが、昨年度よりも評価は下がった。

2. 項目ごとの分析結果

平均よりも数値が大きい場合も、小さい場合もその差は0.1という微差であるため、項目について特筆すべきことはない。

しかしながら、気になる点は、C-①-1「授業の進み具合」について、439名の回答者中、5名が「早すぎる」、15名が「少し早い」と回答した。また、D-①-1「授業のレベル」について、2名が「高すぎる」、15名が「少し高い」と回答した一方、「少し低い」「低い」と回答した学生は、それぞれ3名と1名であった。これらの評価からは、本科目群のレベルについていけない学生が2専攻の学生中、約4.5%存在することがわかる。

3. 今後の授業改善に向けて

今年度の評価の平均値は全体の平均値とほぼ同様であったが、本科目群は基幹教育としての英語教育であるため、もっと高い評価を得られるよう、特に授業の進度やレベルについていくことのできない学生に対する取り組みが望まれる。

対象：英語教育専攻 CELP（除 PUT）

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」については、4.5であり全体平均4.3よりも上回った。全体平均を下回った項目は5項目あったが、上回った項目は7項目あったため、全体としては、学生が本授業群に対して高く評価したことがわかる。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を下回った 5 項目の中で、C-⑤「私語への適切な処置」(3.7)であり、全体平均より 0.5 下回った。他の項目は 0.1 か 0.2 下回っていた。上回った 7 項目は、全体平均よりも 0.1 か 0.2 上回っていた。0.2 上回った項目は、「全体的評価」、「休まず出席した」、「予習復習を積極的に行った」、「授業の進み具合の適切さ」についてであった。

3. 今後の授業改善に向けて

学生から高い評価を得た項目内容から鑑みると、学生の学習意欲が高く、教員が授業を適切なレベルで実施していることが窺える。しかしながら、C-⑤「私語への適切な処置」(3.7)の結果を鑑みると、私語に対して教師の適切な対応が求められている。

対象：フランス語学科 CELP (除 PUT)

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度 2023 年度と同様に 4.6 であり。また全体平均より 0.3 上回った。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均よりも低かった項目は 2 項目あり、B-③と B-5 であった。全体平均よりも 0.4 高かった項目は C-⑤「私語への適切な処置」であった。それ以外の項目は全て全体平均よりも 0.2 か 0.3 高かった。0.3 高かった項目は 7 項目あり、「全体平均」、「休まず出席した」、「説明がわかりやすかった」、「授業の開始終了時間の順守」、「教員の熱意」、「私語への適切な処理」、「授業への関心度」であった。

全体平均よりも低かった項目 B-③と B-5 については、-0.2、-0.1 であり微差であった。

3. 今後の授業改善に向けて

上記の結果により、学生が本授業に対して高く評価したことがわかる。今後も今期同様の取り組みが望まれる。

対象：中国語学科 CELP (除 PUT)

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度 2023 年度は 4.2 だったが、2024 年度は 4.4 で前年度よりもわずかに評価が上がった。また、全体平均よりも 0.1 上回った。

しかしながら、9 項目 B-①、B-②、B-③、B-5、C-②、C-③、C-⑤、C-⑥、D-①-1、D-②が全体平均を下回った。それ以外は全体平均と同じか上回った。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を下回った項目は 9 個あった。その中で 0.4 下回った項目は「教科書、参考書等を活用した」(3.8)についてであり、「授業には休まず出席した」(4.0)は-0.3 であった。他の項目は全体平均よりもわずかに下回る程度であったため、問題はないと考える。

全体平均よりも上回った項目は 2 つあるが、0.1 の微差であった。

3. 今後の授業改善に向けて

B-①「授業には休まず出席した」が全体平均より 0.3 低い、4.0 であるため大きな問題ではないかもしれないが、どのような原因であろうか？体調不良であれば、やむを得ないが、学習意欲があまり高くないためであれば、意欲を高めるための何等かの方策が必要と考える。

対象：英米語学科 PUT

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」については、4.7 であり全体平均 4.3 よりも 0.4 上回った。全体平均を下回った項目は 2 項目であり、B-①、B-③であった。また、1 項目が全体平均と同じ評価であったが、それ以外の 11 項目は全て全体平均を上回った。学生が本授業を高く評価したことがわかる。2024 年度の回答率は 72%であり、前年度の 25%から大きく上昇した。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均より低かった項目は 2 つであり、B-①「この授業には、休まず出席していた」(4.2)、B-③「シラバスを活用した」(3.4)であった。

この項目以外の項目では、全体平均と同じか上回った。全体平均より 0.4 以上高かった項目は 3 項目で、項目内容は、「この授業は全体として満足」(4.7)、「真摯な態度で受講した」(4.8)、「予習・復習などを積極的に行った」(4.4)であった。学生が積極的に授業参加したことがわかる。

3. 今後の授業改善に向けて

シラバスの活用以外は、どの項目も高得点であったため、今後も今期同様の取り組みが望まれる。

対象：フランス語学科 PUT

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、4.7 であり全体平均よりも 0.4 高かった。全体平均を下回った項目は 1 項目であり、C-⑤であった。それ以外の項目は、同じであった 1 項目を除き、全体平均を上回った。学生が本授業に対して高く評価したことがわかる。気になる点は、回答率の低さ(29%)である。今後は、回答率を上げるために何らかの方策を考える必要がある。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均より 0.4 以上高かった項目は 4 項目で、A-①「この授業は、全体として満足」(4.7)、C-①-1「授業進度が適切」(4.8)、C-②「教員はわかりやすく説明していた」(4.9)、D-②「授業に大変興味を持てた」(4.7)であった。教員の指導上の配慮により、学生の興味が増し、積極的に授業参加できたことがわかる。

3. 今後の授業改善に向けて

今後も今期同様の取り組みが望まれる。

対象：中国語学科 PUT

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は 4.0 であり、全体平均 4.3 より 0.3 下回った。全体平均より低い項目は 4 項目で、他の項目では全体平均と同じか上回った。気になる点は、回答率の低さ (7%) である。今後は、回答率を上げるために何らかの方策を考える必要がある。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均より評価が大きく高かった項目は 1 つであり (+0.7)、B-①「この授業には、休まず出席した」(5.0) であった。全体平均より低かった項目は 5 項目であり、全体平均より 0.3 以上低かった項目は 2 項目で「全体としての満足度」(4.0) と「この授業に大変興味を持てた」(4.0) であった。全体平均よりは低かったが、評価自体はそれほど低くはない。

3. 今後の授業改善に向けて

この授業の受講生は 55 名であったが、4 名のみしか回答していないため、本結果によっては実像を把握することが難しいが、他の学科に比べると低い評価となっている。今後は実態を把握するために回答率を上げる方策が必要である。

対象：中国語学科・フランス語学科混合 PUT

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、4.7 であり全体平均よりも 0.4 高かった。全体平均を下回った項目は 2 項目であり、B-①と B-③であった。それ以外の項目は、同じであった 1 項目を除き、全体平均を上回った。学生が本授業に対して高く評価したことがわかる。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均より 0.4 以上高かった項目は 1 項目で、A-①「この授業は、全体として満足」(4.7) であった。一方全体平均より 0.5 下回った項目は 1 項目で、B-③「シラバスを活用した」(3.2) であった。

3. 今後の授業改善に向けて

回答率は 69% であった。全体平均より上回った項目は 12 項目であったことから、今後も今期同様の取り組みが望まれる。

対象：世界教養学科 CELP (除 PUT)

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は 4.3 であり、前年度 2023 年度の 4.2 より 0.1 上回った。また、全体平均 4.3 と同じであった。全体平均より低い項目は 5 項目あり、他の項目では全体平均と同じか少し上回った。回答率は 35% であり、他の学科 (46~62%) と比較すると低かった。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均より低かった 5 項目の内、B-5「教科書、参考書を十分に活用した」が全体平均より 0.4 低かったが、他の項目では微差で、問題のない数値であった。全体平均より上回った 3 つの項目は「予習、復習を積極的に行った」、「授業の進み具体は適切であった」、「教師はわかりやすく説明していた」であったが、それぞれ 0.1 上回った。

3. 今後の授業改善に向けて

今後も今期同様の取り組みが望まれる。

対象：世界教養学科 PUT

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、4.7 であり、全体平均 4.3 を 0.4 上回った。全体平均より低い項目は 2 項目で、1 項目は全体平均と同じで、12 項目では上回った。4 項目において 0.4 以上上回った。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均より 0.4 以上高かった項目は 4 項目で、A-①「全体としての満足度」(4.7)、C-⑥「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」(4.8)、D-②「この授業に大変興味を持てた」(4.7)、D-3「4 スキルのうちいずれかを伸ばすことができた」(4.7)であった。

全体平均より低かった項目は、B-③「シラバスを活用した」(3.4)、C-④「教員は熱意を持って取り組んでいた」(4.5)であったが、4.5 という評価は高いと考える。

3. 今後の授業改善に向けて

回答率は、67%であり、前年度の 26%から大きく上昇した。今後も今期同様の取り組みが望まれる。

対象：国際日本学科 CELP (除 PUT)

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は 4.2 であり、全体平均 4.3 より 0.1 下回った。全体平均より低い項目は 8 項目で、それ以外の 6 項目では全体平均と同じか少し上回った。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均より低かった 8 項目のうち、全体平均より 0.4 以上低かった項目は D-①-1「授業レベルが適切であった」であり、65 名の回答者の内、4 名が「少し高い」、2 名が「少し低い」と回答した。

これ以外の全体平均より下回った 7 項目については、0.1 か 0.2 下回った。

3. 今後の授業改善に向けて

授業レベルに関しては、65 名の回答者の内、4 名が「少し高い」、2 名が「少し低い」と回答しており、このクラスでの英語力レベルに差のあることがわかる。このようなレベル差に関しては、今後どのよう

に取り組んでいくかをさらに検討する必要がある。しかしながら、「この授業に大変興味を持てた」の回答は平均 4.2 であり、全体平均より 0.1 低いものの、担当教員の努力のおかげだと感じる。

対象：国際日本学科 PUT

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は 4.8 であり、全体平均 4.3 を 0.5 上回った。全体平均より低い項目は 1 項目で、他の項目では 1 項目が全体平均と同じであり、それ以外の 13 項目で上回った。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均より評価が 0.5 上回った項目は 2 項目 C-①-1「授業の進度は適切であった」(4.8)、C-⑥「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」(4.8)であった。全体平均より低かった 1 項目は、「シラバスを活用した」であり全体平均より 0.1 下回った。

3. 今後の授業改善に向けて

回答率は 76%であり、前年度の 14%から大きく回復した。全体平均より上回った項目は 13 項目であり学生の評価が高いことから、今後も今年同様の取り組みが望まれる。

対象：フランス語学科 PLP 英語

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、4.2 であり全体平均 4.3 よりも 0.1 下回った。5 項目が全体平均を下回り、全体平均より上回った項目は 8 項目であり、4 項目が全体平均と同じであった。しかしながら、各項目と全体平均との差は 0.1 か 0.2 だったため、特に問題ではない。

気になる点は、回答率の低さ(34%)である。しかしながら前年度は 13%であったため、前年度よりは回答率は少々上昇した。さらに何らかの方策を考える必要がある。

2. 項目ごとの分析結果

上記で述べたように、どの項目も全体平均と同じか、差があっても微差であった。

3. 今後の授業改善に向けて

全体平均より下回った項目であっても、ほとんどが 4 以上の評価であるため、ひどく評価が低いというわけではない。また、授業の進度についても、授業レベルについても適切であるように評価されているため、今度も今年同様の取り組みが望まれる。

対象：中国語学科 PLP（英語）

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、4.0 であり全体平均 4.3 よりも 0.3 下回った。

全体平均を下回った項目は 11 項目であり、全体平均と同じ項目は 2 項目、上回った項目は 4 項目であった。学生が本授業に対して全体平均より低く評価したことがわかる。気になる点は、回答率の低さ(13%)である。前年度は 18%であり、さらに下がったため、今後は回答率を上げるために何らかの方策を考える必要がある。

2. 項目ごとの分析結果

全部で 17 項目のうち全体平均を下回った項目は 11 項目であった。全体平均より 0.5 低かった項目は 1 つで、C-②「教員はわかり易く説明していた」(3.9)、0.4 低かった項目は、C-④「教員は熱意をもって取り組んでいた」(4.2)であった。

3. 今後の授業改善に向けて

全体平均よりも評価が下回った項目が多かったとはいえ、平均点自体が特に悪いわけではない。また回答率が 13%と非常に低いため、これらの評価が受講生全体のものとは考えられないが、少数の受講生の意見(215 名中 29 名)とはいえども、今後は教員の授業に対する評価が上がるように改善されることを期待する。

対象：国際日本学科 PLP（英語）

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は 4.2 であり、全体平均 4.3 より 0.1 下回った。2 項目では全体平均と同じ評価であったが、他の 15 項目では全体平均を下回った。気になる点は、回答率の低さ(37%)である。前年度は 19%であったので、2024 年度の回答率は少々良くなったが、まだ低い回答率である。今後は、回答率を上げるために何らかの方策を考える必要がある。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均より 0.5 低かった項目は、1 項目で B-①「この授業には休まず出席した」(3.8)であった。全体平均より 0.4 下回った項目は 4 項目あった。B-②「この授業には真摯な態度で受講した」(4.0)、B-4「予習、復習などを積極的に行った」(3.6)、B-6「4 技能のいずれか 1 つ以上について積極的に行うようになった」(4.0)であった。

3. 今後の授業改善に向けて

ほとんどの項目で全体平均より低かったが、その中でも B-①は出席に関する項目(3.8)、B-4 は予習、復習に関する項目(3.6)であり、これらの項目の評価が低いということは、受講生の学習意欲が低いのではないかと推測する。今後は、担当教員に授業方法を工夫していただき、受講生の学習動機を高めていただくことを期待する。

対象：フランス語学科・国際日本学科共通 PLP（英語）

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は 4.6 であり、全体平均 4.3 より 0.3 上回った。全体平均より低い項目は 2 項目で、他の 15 項目では全体平均と同じか上回った。気になる点は、回答率の低さ(19%)である。前年度は 34%であったが 2024 年度はさらに下がった。今後は、回答率を上げるために何らかの方策を考える必要がある。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均より低かった 2 項目は、全体平均と微差であった。全体平均より 0.5 以上上回った項目は 6

項目あった。B-①「この授業には休まず出席した」(4.8)、B-4「予習、復習などを積極的に行った」(4.6)、B-5「教科書、参考書などを十分に活用した」(5.0)、B-6「4 技能のいずれか 1 つ以上について積極的に行うようになった」(5.0)、C-⑤「私語への適切な処置がとられていた」(4.8)、D-4「履修した言語の文化への興味を持つことができた」(4.7)であった。

3. 今後の授業改善に向けて

全体平均よりも大きく評価が上回った項目は多いが、回答率が 19%と非常に低いため(27 名中 5 名)、これらの評価が受講生全体のものとは考えられないかもしれないが、よい傾向であるとは言える。D-4「この授業により、履修した言語の文化への興味を持つことができた」が 4.7 であったことは、この授業の方向性が適切であったことを示している。

2024年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	教養教育推進センター	担当者	甲斐清高
------	------------	-----	------

1. 調査結果の概要

教養教育推進センター(CLAD)提供の科目群のうち、ICT プログラム、および、世界教養プログラム応用科目のアンケート結果を対象に分析する。

ICT プログラムについては、回答者数 208 名（回収率 20%）、世界教養プログラム応用科目については、回答者数 327 名（回収率 11%）であった。

2. 項目ごとの分析結果

ICT プログラム

D-①-1「授業のレベルは、自分にとって適切であった」は、平均 3.3 であり特に低い値となっている。D-①-2 から、レベルが高すぎると思っている受講生の割合が高いことが分かる。多くの回答者が受講した「データサイエンス A」は統計学の基礎を学ぶ科目であり、本学の学生は苦手な場合が多いことが影響しているのだろう。担当教員からも、2024 年度に使用していた共通テキストはレベルが高いとの意見をもらっており、ICTP 部門メンバーで検討した結果、2025 年度はテキストを変更している。この効果を期待したい。

B-4「この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった」も平均 3.5 で低いため、積極的に予習・復習するように受講生を導くことも必要である。

世界教養プログラム応用科目

全体的に大学全体の平均と同じくらいの結果であり、概ね高い評価が得られていると思われる。

「B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった」については、3.7 と平均より低い。オンライン授業であることが、この値を低くしているのかもしれない。実際は、予習・復習を促すように工夫している授業もあるが、他の対面授業ほどは予習・復習をしている意識が高くないのだと思われる。

C-⑤「授業中の私語には適切な処置がとられていた。」および C-⑥「学生が積極的に授業に参加できるように配慮されていた」が、少し平均を下回っている。私語への適切な処置に関しては、授業がオンラインで実施されている点を考慮すると、この質問への回答が平均を下回っているのは当然であり、特に問題はない。学生が積極的に参加できるように配慮しているかどうかについても、応用科目については、クラスサイズが非常に大きく、かつオンラインで実施されている点を考えると、平均を下回るのはやむを得ない部分もあるだろう。それでも 4 以上の値を示しているのは、むしろ評価に値すべきだと思う。オンラインでの授業であるにもかかわらず、C-④「教員は授業に熱意を持って取り組んでいた」や、D-②「この授業に大変興味を持てた」等について、高い数値を示していることを考えると、担当教員の熱心な取り組みが伝わっていることが窺え、良い結果だったと言える。

3. 今後の授業改善に向けて

ICT プログラム

授業担当者打ち合わせ会にて、担当教員からの意見や要望をもらい、毎年、使用テキストや授業内容の見直しを行っている。引き続き、授業改善を続けていきたい。

世界教養プログラム応用科目

クラスサイズの大きいオンライン授業においては、少人数の対面授業よりも、積極的に授業に参加している実感が小さくなり、また、予習・復習への意識も小さくなることは、仕方のない部分ではあるが、実際のところ、個々の教員は学生が授業に参加できるように、また、予習・復習を促すように、工夫を凝らしている。学生の参加意識を配慮しながら、引き続き満足度の高い授業を目指していきたい。

2024年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	教職センター	担当者	大橋保明
------	--------	-----	------

1. 調査結果の概要

「〔外・現・教〕教職専門科目」群の授業評価アンケートの実施概要は、回答数 148 名、受講者数 787 名、回収率 19%であった。

「A－①全体としての満足度」についての項目は、前年度（2023 年度）の 4.2 から 0.1 ポイントアップの 4.3 で、全体平均と同等であった。全体平均を上回った項目は、「B－①授業への出席」（+0.3）、「B－②授業への態度」（+0.1）、「C－④教員の熱意」（+0.1）、「D－①－1 授業レベルの適切さ」（+0.1）、「D－2 授業への興味」（+0.1）の 5 項目で、全体平均を下回った項目は、「B－4 授業の予習・復習」（-0.1）、「B－5 教科書の活用」（-0.5）、「C－⑥授業参加への配慮」（-0.2）の 3 項目であった。

2. 項目ごとの分析結果

上記のとおり、全体平均から±0.3 ポイント以上の項目として、「B－①授業への出席」（+0.3）と「B－5 教科書の活用」（-0.5）の 2 項目が該当した。後者については、前年度（2023 年度）も全体平均を 0.6 ポイント下回っており、早急に改善されなければならない。

前年度（2023 年度）から今年度（2024 年度）にかけて 2 年連続で全体平均を上回った項目は、「B－①授業への出席」の 1 項目、一方、2 年連続で全体平均を下回った項目は、「B－4 授業の予習・復習」、「B－5 教科書の活用」、「C－⑥積極的な授業参加への配慮」の 3 項目であった。特に、「C－⑥積極的な授業参加への配慮」については、具体的にどのような内容が含まれるのか定かでないが、教職科目は演習形式の語学科目とは異なり、講義中心の傾向にあることが影響していると考えられる。

3. 今後の授業改善に向けて

回答率については、21 生以前（4 年生）の回答数が 18 と最も少ないが、これは教職 4 年生科目の「教職実践演習（中高）」と「教育実習Ⅰ・Ⅱ」がどちらもアンケート対象外の科目であることに起因している。いずれにせよ、前年度（2023 年度）20%から今年度（2024 年度）19%への回答率の低下・低迷は、正当な評価活動の観点からも望ましくない。回収率の向上は喫緊の組織的課題であり、教職センター運営会議においても、ポータル等を活用したアンケート調査の周知や授業内でのアンケート実施等の具体的な方策について早急に検討したい。

明確な課題として浮かび上がった「B－5 教科書の活用」については、指定教科書の適切性や活用方法を再点検し、必要に応じて学習計画の見直し（シラバスの修正等）や指定教科書等の再選定を要請したい。また、それらの教材や ICT を最大限活用し、学習者主体の授業展開を積極的に図っていきたい。

2024年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	大学院グローバルコミュニケーション研究科	担当者	鈴木 茂
------	----------------------	-----	------

1. 調査結果の概要

調査対象科目は、グローバルスタディーズ 研究 VI（開発とグローバルイシュー）と英語教育法研究 III（Materials Development and Classroom Dynamics）の2科目であった。履修者総数は、両科目合わせて41人、回答者は23人で回答率は56%とやや低かった。それとともに、入学年度を記入した回答者は6人にすぎず、17人の回答者は入学年度が不明となっている。

授業への満足度、受講態度など、全体として概ね良好である。

2. 項目ごとの分析結果

B-5「この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。」については、回答者総数23人の約半数（12名）が「未回答」であったのが目立った。「とてもそう思う」「やや思う」という回答者が合わせて11人おり、明確に2つに分かれている。対象科目が2科目のみであるため、いずれかの授業ではこの質問項目が当てはまらない可能性がある。

言語の運用能力に関するD-3、D-4、健康維持に関するD-6、D-7、D-8の質問は、大学院課程の授業として相応しくない。

3. 今後の授業改善に向けて

教員アンケートのFDに関する回答に、以下ものがあつた。今後のFDのテーマとして慶長に値する。

- ・ 大学院教育の在り方。本学は学部と同じように講義形式の授業が多く、私も講義形式を取り入れているが、これを継続して良いのか迷いがある。前回のFD研修で、「大学院教育の在り方」のお話がだされたが、他の大学院はどうなのかといったことなども知りたい。私の経験では、日本では講義よりも専門性に特化した文献購読、アメリカでは講義であった。

2024年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	国際日本語教育インスティテュート	担当者	村上かおり（日本語） 櫻井省吾（GJSC）
------	------------------	-----	--------------------------

1. 調査結果の概要

2024年度2期に国際日本語教育インスティテュート(IJLE)として開講した日本語コースは週8コマの集中コース6つ、週4コマの半集中コース5つ、日本語能力試験対策コース(各週1コマ)2つであり、コマ数は合計70コマであった。これらの授業は対面授業で行われ、118名が受講した。

GJSCコースは5分野に分かれ、①ビジネス系2コース、②社会系4コース、③文化系7コース、④言語系3コース、⑤特殊講義4コースを開講し、合計20コースを開講し、すべて対面授業で行われた。

2. 項目ごとの分析結果

● 日本語科目

14項目の平均値の全てにおいて平均値4.0以上を得て、そのうち8項目が4.5以上であった。これは概ね良好な結果と言ってよいであろう。

特に「C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」と「B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した」は5.0、「C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた」と「C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた」は4.9と、大変良い評価を得ている。また「C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた(平均値4.7)」は「B-② この授業には、真剣な態度で受講した(平均値4.7)」に資するものであったと考えられる。加えて「C-② 教員はわかり易く説明していた」と「D-② この授業に大変興味を持てた」(いずれも平均値4.6)と学生が感じてくれたことは担当教員としての喜びである。

これらによって「A-1 この授業は、全体として満足であった」(4.4)と高い評価を得ることができた。IJLEでは多くの授業を非常勤教員に頼っているが、上記の結果は専任教員、非常勤教員が皆、日本での日本語習得への期待を胸に留学してきた学生たちの要望に応えるために尽力した結果だと言えよう。今後も受講生からのこのような高い満足度を引き出す授業を継続できるように努力を続けたい。担当教員の方々の努力と工夫に深い感謝の意を表すものである。

● GJSC 科目

すべての項目において4.0以上を得て、全体平均よりも高い項目は9項目、低い項目は1項目のみであったため、概ね良好な結果と言ってよいであろう。しかし、各項目の全体平均との差は0.1、もしくは0.2程度で、唯一、「B-③ この授業の登録前、または履修中に、シラバスを活用した」では全体平均を0.8上回っていた。この結果は、前述のとおり、GJSCのコースは5分野にまたがり、留学生は自分の興味あるもの、または自分の専攻分野のコースで母国の大学の卒業単位として必須のものをとるため、シラバスを吟味して履修科目を選択するためであろう。

昨年の授業アンケート結果と比較したところ、平均点が上がった項目は4項目、下がった項目も4項目であった。それらの差は0.1、もしくは0.2程度であったため、昨年度から大きく変わった特徴は見られなかった。

3. 今後の授業改善に向けて

● 日本語科目

協定校数の増加と共にこれからも留学生数の増加が期待される。今後も受講生の日本語力伸長と満足度の向上を目指し、授業の質の更なる向上を期した教育の実施に力を注ぎ続けたい。

授業の改善からはやや離れるが、今回のアンケートでは回収率が 24%と大変低かった。今後はさらに多くの受講生からのフィードバックを得て授業の改善に生かすことができるように、インスティテュート内での告知を強化したい。

● GJSC 科目

数年前と比べて、日本語コースを取らずに GJSC コースのみを取る学生が増加している傾向がある。そして、留学生と一緒に英語で授業を受けることができる GJSC コースは本校の売りでもある。そのため、今後はどのように GJSC コースを教えられる教員を確保していくか、そして、どのように留学生と国内学生の意味ある交流を促す授業展開（例：協働作業、問題解決、アクティブラーニング）を各 GJSC 担当教員に促していくか（質の担保）が当面の課題である。

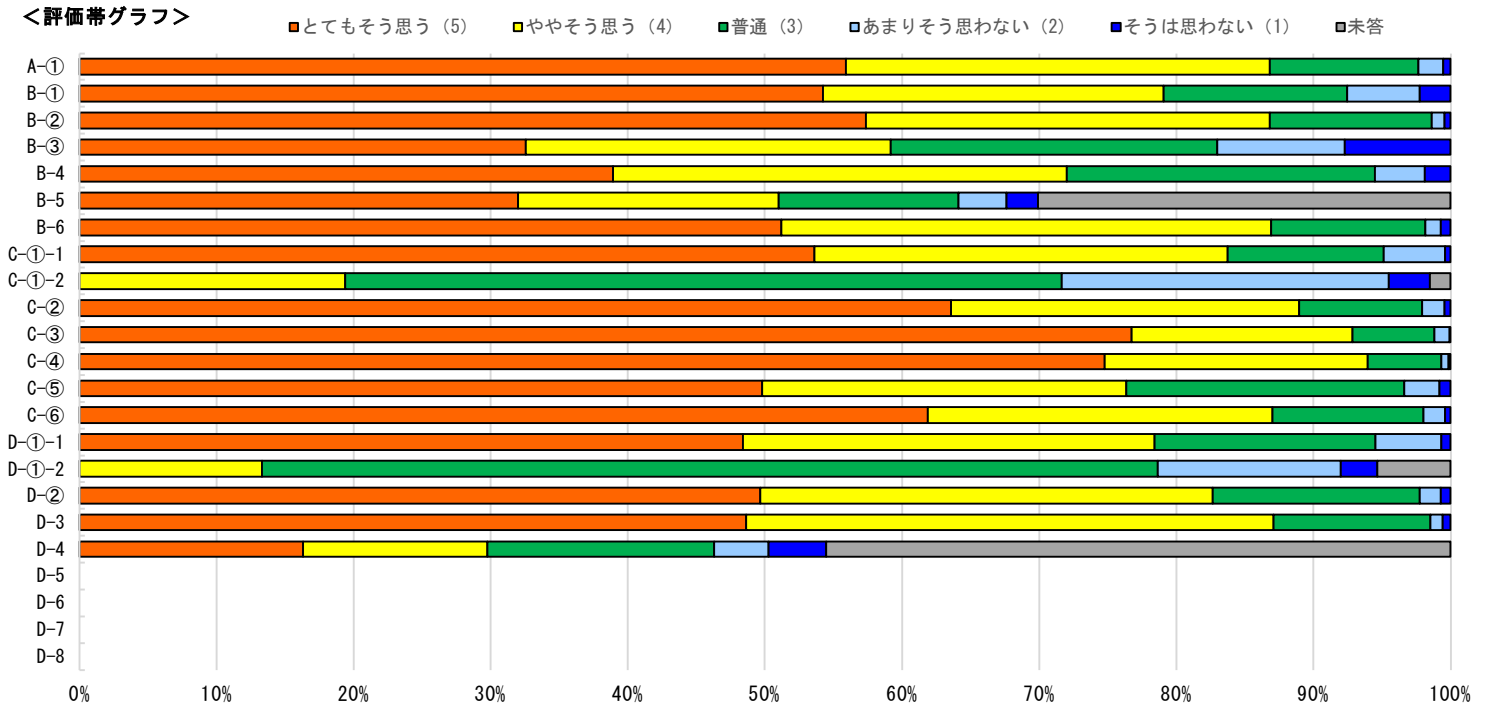
2024年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	英米語・英語コミュニケーション専攻

入学年度	回答数	受講者数	回収率
24生	890	---	---
23生	256	---	---
22生	118	---	---
21生以前	104	---	---
その他	4	---	---
不明	0	---	---
合計	1,372	4,425	31%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	767	424	149	25	7	0	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	744	341	184	72	31	0	4.2	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	787	404	162	13	6	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	447	365	327	127	106	0	3.7	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	534	454	308	50	26	0	4.0	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	439	261	180	48	31	413	4.1	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	282	197	62	6	4	0	4.4	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	736	413	156	62	5	0	4.3	4.3
C-①-2	そうは思わない、あまりそう思わないの場合	早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		13	35	16	2	1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	872	349	123	22	6	0	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	1,053	221	82	15	1	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	1,026	263	74	7	2	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	683	365	278	35	11	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	849	345	151	22	5	0	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	664	412	221	66	9	0	4.2	4.2
D-①-2	そうは思わない、あまりそう思わないの場合	高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		10	49	10	2	4		
D-② この授業に大変興味を持てた。	681	453	207	21	10	0	4.3	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	268	212	63	5	3	0	4.3	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	90	74	91	22	23	251	3.6	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.6
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



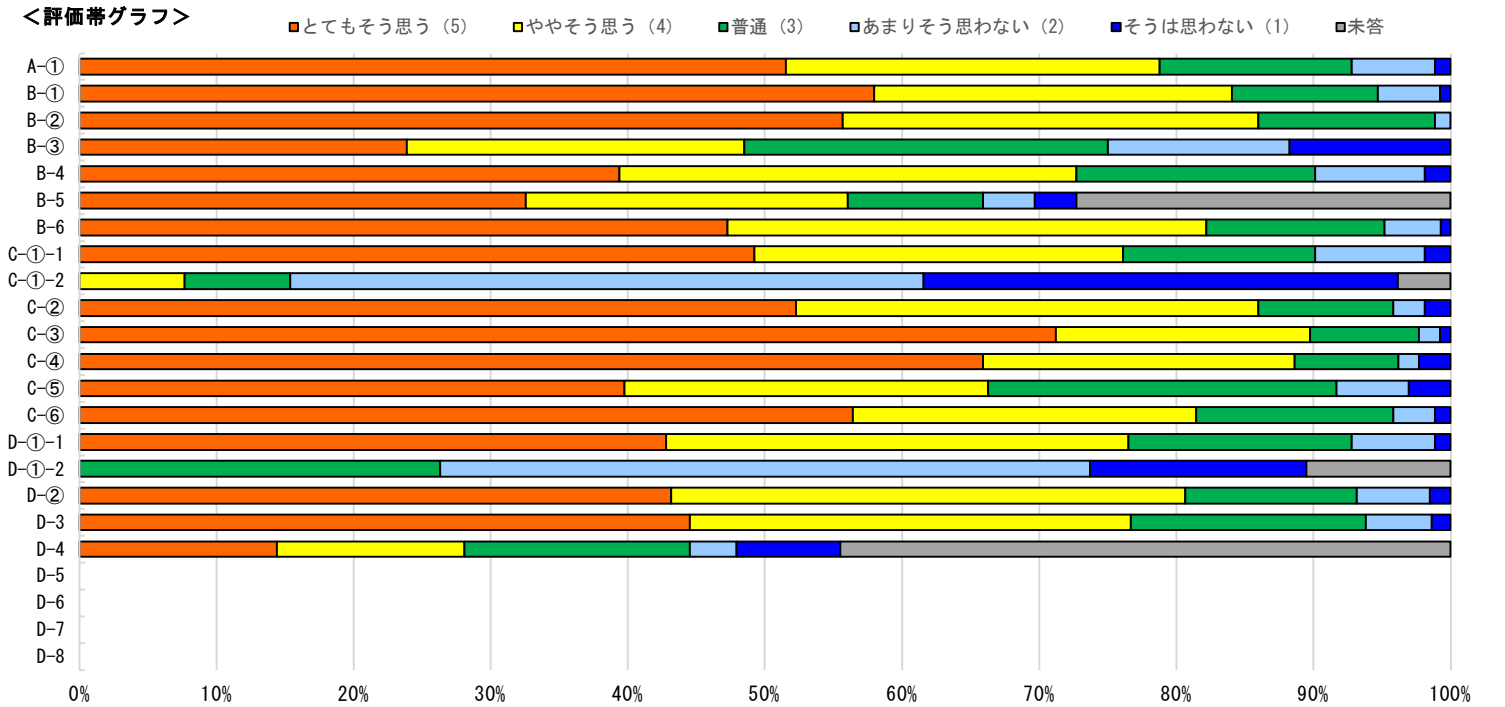
2024年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	英語教育専攻

入学年度	回答数	受講者数	回収率
24生	176	---	---
23生	64	---	---
22生	20	---	---
21生以前	4	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	264	549	48%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	136	72	37	16	3	0	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	153	69	28	12	2	0	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	147	80	34	3	0	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	63	65	70	35	31	0	3.4	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	104	88	46	21	5	0	4.0	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	86	62	26	10	8	72	4.1	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	69	51	19	6	1	0	4.2	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	130	71	37	21	5	0	4.1	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 2	少し早い 2	少し遅い 12	遅すぎる 9	未答 1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	138	89	26	6	5	0	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	188	49	21	4	2	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	174	60	20	4	6	0	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	105	70	67	14	8	0	3.9	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	149	66	38	8	3	0	4.3	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	113	89	43	16	3	0	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 0	少し高い 5	少し低い 9	低すぎる 3	未答 2		
D-② この授業に大変興味を持てた。	114	99	33	14	4	0	4.2	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	65	47	25	7	2	0	4.1	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	21	20	24	5	11	65	3.4	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.6
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



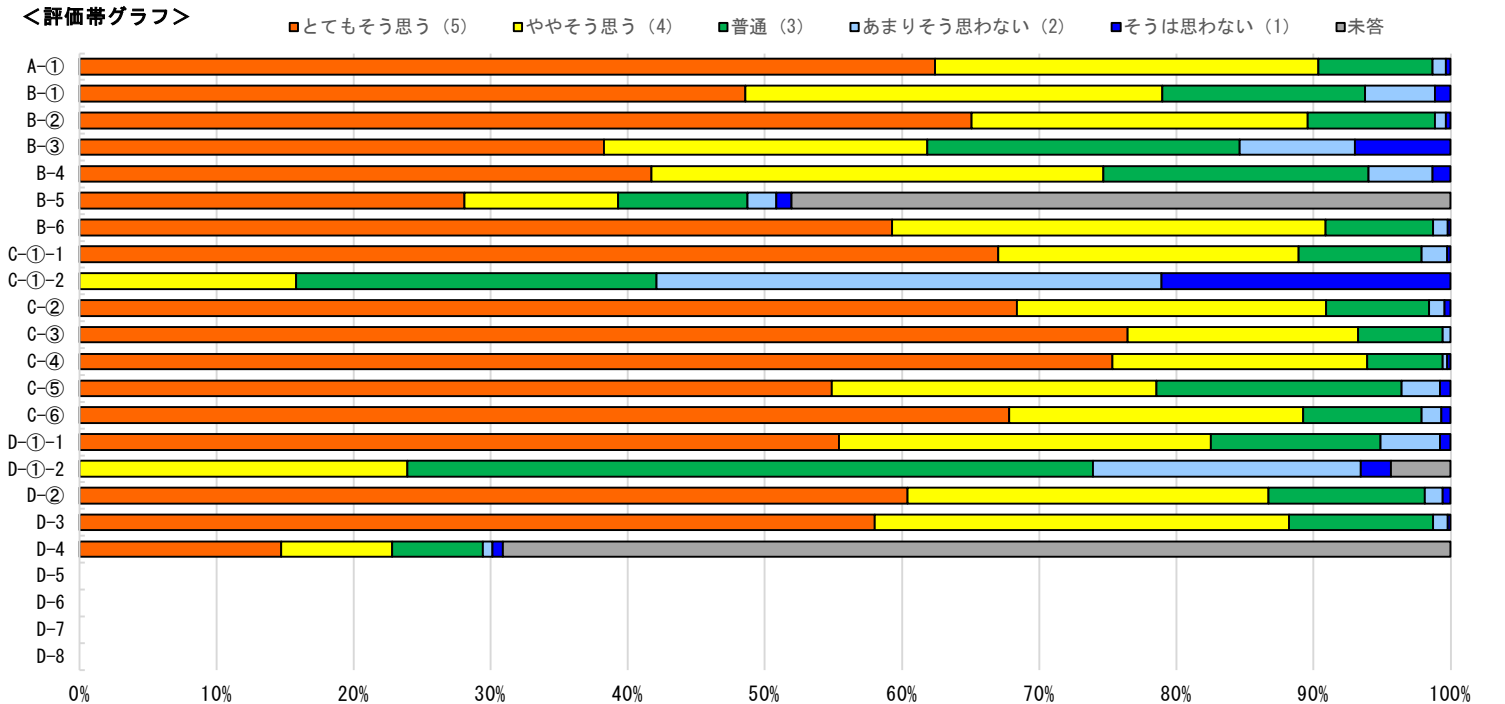
2024年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	英米語学科共通

入学年度	回答数	受講者数	回収率
24生	498	---	---
23生	107	---	---
22生	195	---	---
21生以前	95	---	---
その他	9	---	---
不明	0	---	---
合計	904	2,672	34%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	564	253	75	9	3	0	4.5	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	439	275	134	46	10	0	4.2	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	588	222	84	7	3	0	4.5	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	346	213	206	76	63	0	3.8	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	377	298	175	42	12	0	4.1	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	173	69	58	13	7	296	4.2	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	332	177	44	6	1	0	4.5	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	606	198	81	17	2	0	4.5	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 3	少し早い 5	少し遅い 7	遅すぎる 4	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	618	204	68	10	4	0	4.6	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	691	152	56	5	0	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	681	168	50	3	2	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	496	214	162	25	7	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	613	194	78	13	6	0	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	501	245	112	39	7	0	4.3	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 11	少し高い 23	少し低い 9	低すぎる 1	未答 2		
D-② この授業に大変興味を持てた。	546	238	103	12	5	0	4.4	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	325	169	59	6	1	0	4.4	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	40	22	18	2	2	188	4.1	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.6
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



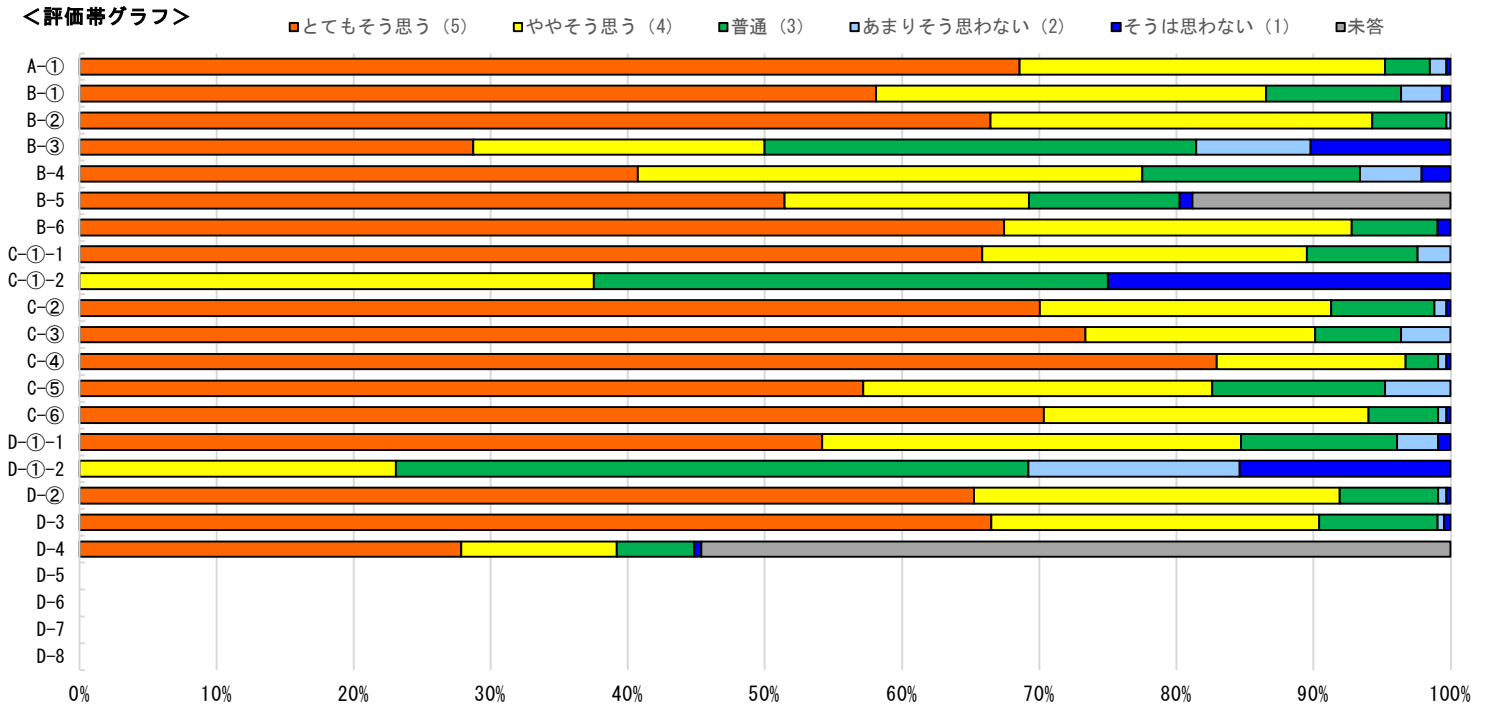
2024年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	フランス語学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
24生	136	---	---
23生	126	---	---
22生	54	---	---
21生以前	17	---	---
その他	1	---	---
不明	0	---	---
合計	334	780	43%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	229	89	11	4	1	0	4.6	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	194	95	33	10	2	0	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	222	93	18	1	0	0	4.6	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	96	71	105	28	34	0	3.5	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	136	123	53	15	7	0	4.1	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	164	57	35	0	3	60	4.5	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	141	53	13	0	2	0	4.6	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	220	79	27	8	0	0	4.5	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		早すぎる 3	少し早い 3	少し遅い 0	遅すぎる 2	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	234	71	25	3	1	0	4.6	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	245	56	21	12	0	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	277	46	8	2	1	0	4.8	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	191	85	42	16	0	0	4.4	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	235	79	17	2	1	0	4.6	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	181	102	38	10	3	0	4.3	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		高すぎる 3	少し高い 6	少し低い 2	低すぎる 2	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	218	89	24	2	1	0	4.6	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	139	50	18	1	1	0	4.6	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	54	22	11	0	1	106	4.5	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.6
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



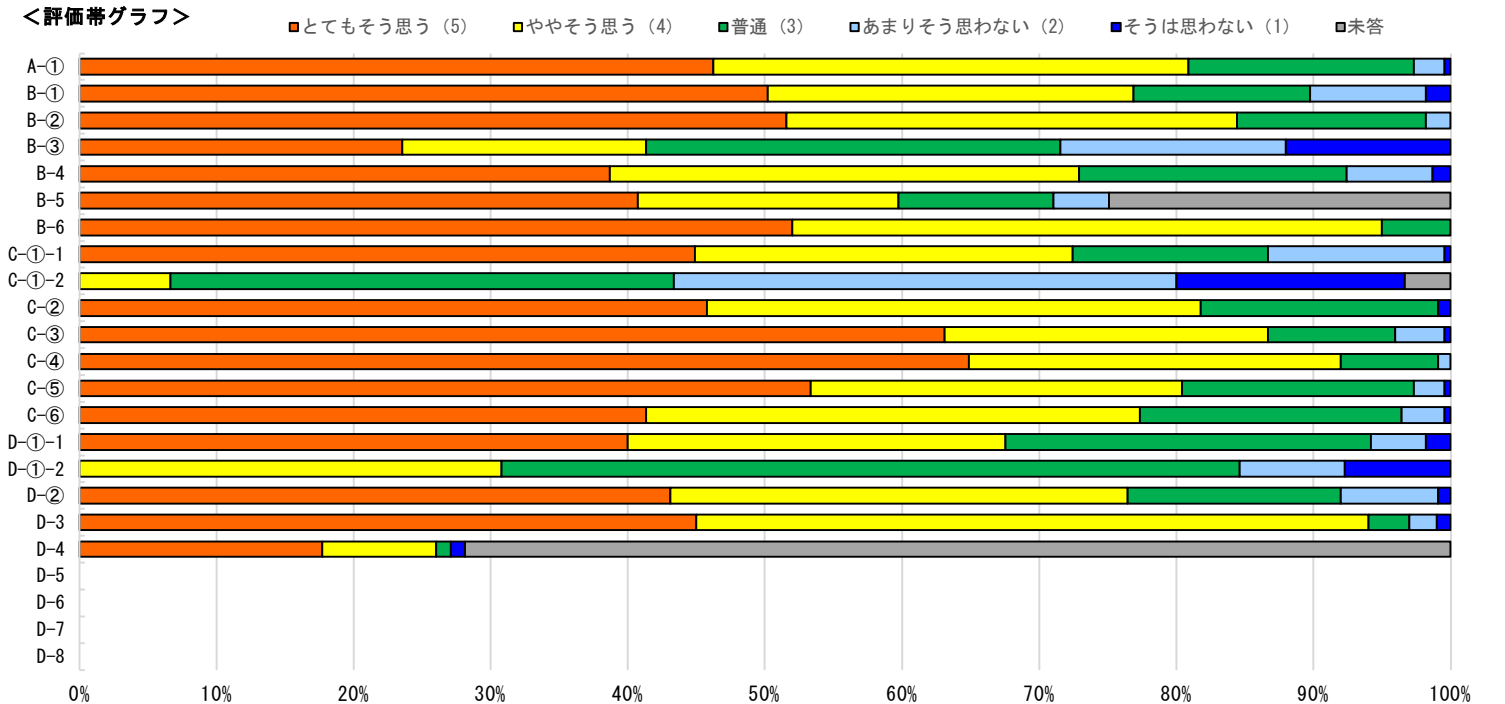
2024年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	中国語学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
24生	172	---	---
23生	26	---	---
22生	18	---	---
21生以前	8	---	---
その他	1	---	---
不明	0	---	---
合計	225	712	32%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	104	78	37	5	1	0	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	113	60	29	19	4	0	4.2	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	116	74	31	4	0	0	4.3	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	53	40	68	37	27	0	3.2	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	87	77	44	14	3	0	4.0	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	90	42	25	9	0	55	4.3	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	52	43	5	0	0	0	4.5	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	101	62	32	29	1	0	4.0	4.3
C-①-2	そうは思わない、あまりそう思わないの場合	早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		2	11	11	5	1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	103	81	39	0	2	0	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	142	53	21	8	1	0	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	146	61	16	2	0	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	120	61	38	5	1	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	93	81	43	7	1	0	4.1	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	90	62	60	9	4	0	4.0	4.2
D-①-2	そうは思わない、あまりそう思わないの場合	高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		4	7	1	1	0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	97	75	35	16	2	0	4.1	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	45	49	3	2	1	0	4.4	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	17	8	1	0	1	69	4.5	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.6
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



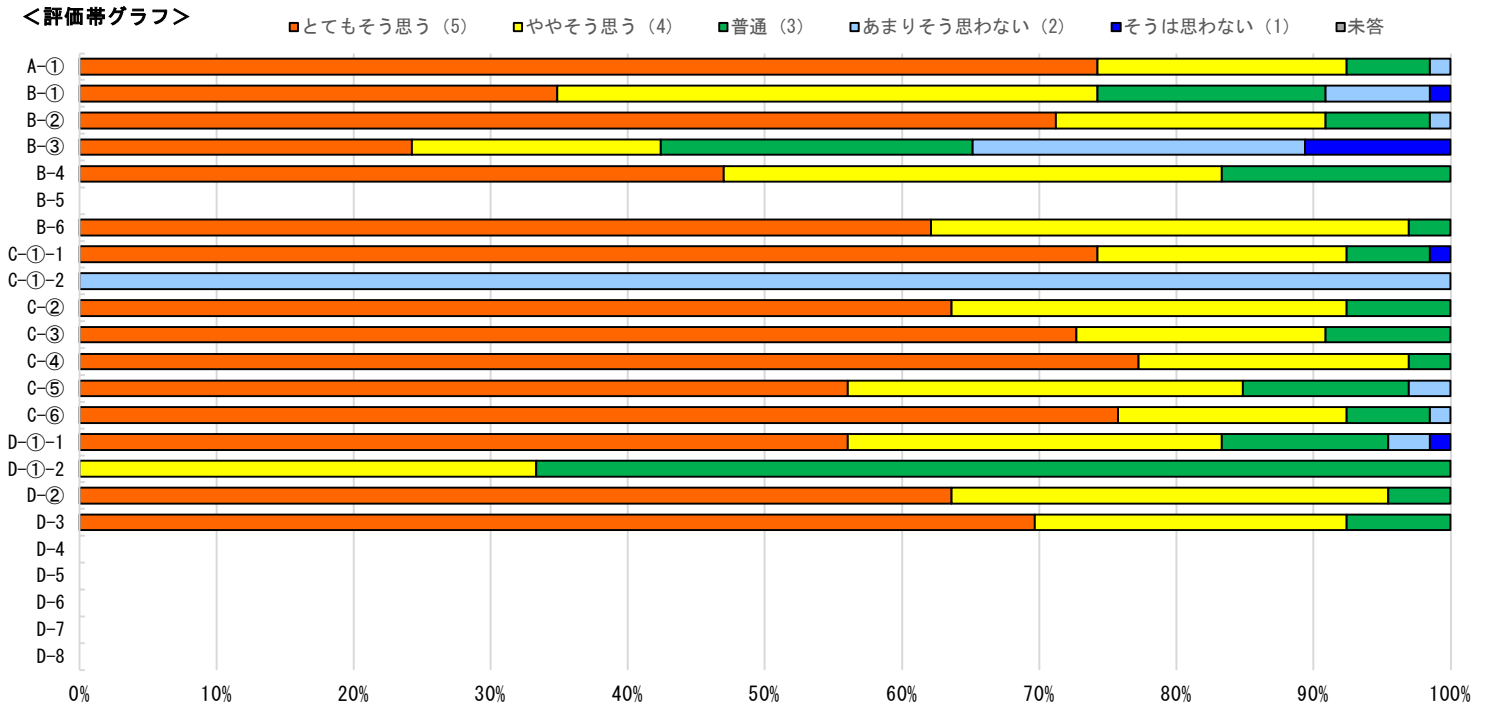
2024年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	フランス語・中国語学科共通

入学年度	回答数	受講者数	回収率
24生	65	---	---
23生	0	---	---
22生	0	---	---
21生以前	1	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	66	95	69%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	49	12	4	1	0	0	4.7	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	23	26	11	5	1	0	4.0	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	47	13	5	1	0	0	4.6	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	16	12	15	16	7	0	3.2	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	31	24	11	0	0	0	4.3	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	41	23	2	0	0	0	4.6	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	49	12	4	0	1	0	4.6	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 0	少し早い 0	少し遅い 1	遅すぎる 0	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	42	19	5	0	0	0	4.6	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	48	12	6	0	0	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	51	13	2	0	0	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	37	19	8	2	0	0	4.4	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	50	11	4	1	0	0	4.7	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	37	18	8	2	1	0	4.3	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 1	少し高い 2	少し低い 0	低すぎる 0	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	42	21	3	0	0	0	4.6	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	46	15	5	0	0	0	4.6	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.6
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



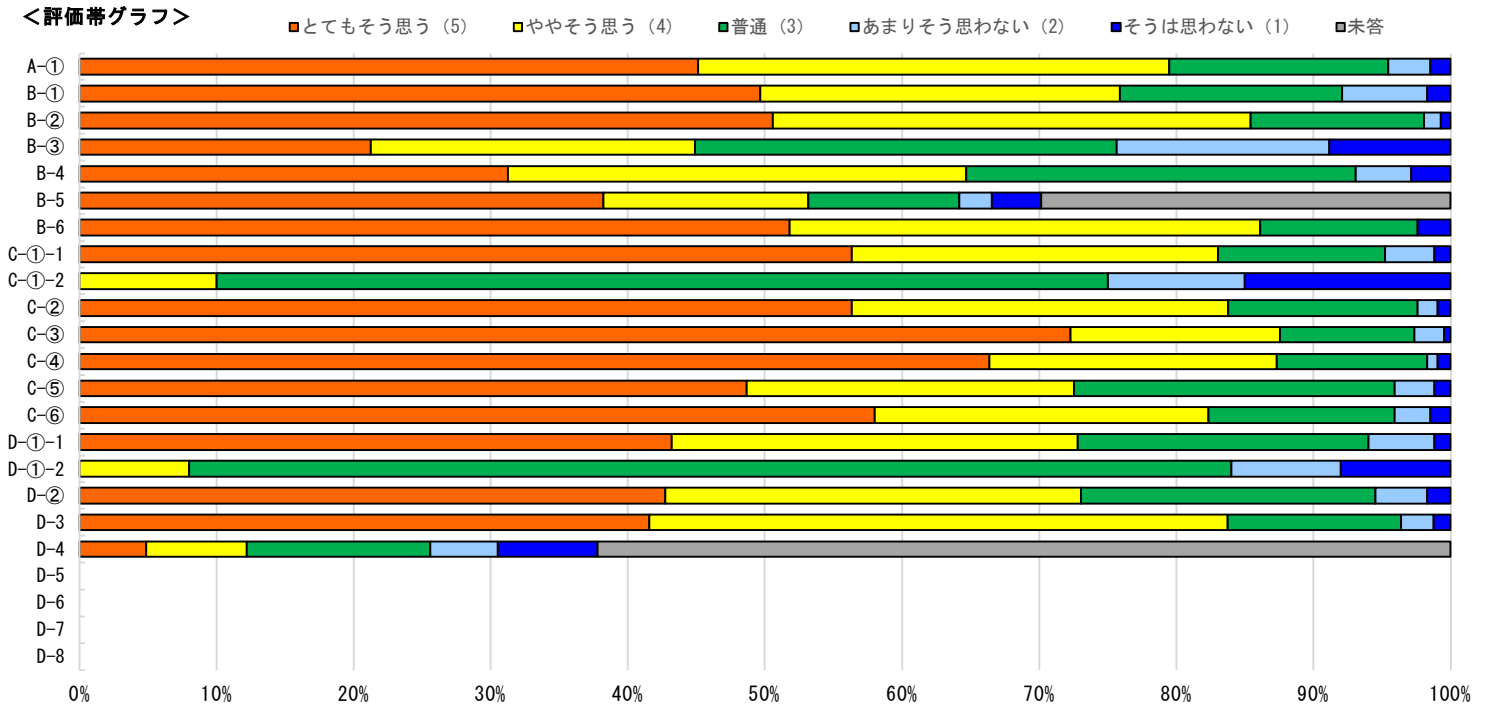
2024年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	現代英語学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
24生	350	---	---
23生	53	---	---
22生	7	---	---
21生以前	9	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	419	1,299	32%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	189	144	67	13	6	0	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	208	110	68	26	7	0	4.2	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	212	146	53	5	3	0	4.3	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	89	99	129	65	37	0	3.3	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	131	140	119	17	12	0	3.9	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	128	50	37	8	12	100	4.2	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	86	57	19	0	4	0	4.3	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	236	112	51	15	5	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 2	少し早い 13	少し遅い 2	遅すぎる 3	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	236	115	58	6	4	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	303	64	41	9	2	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	278	88	46	3	4	0	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	204	100	98	12	5	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	243	102	57	11	6	0	4.3	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	181	124	89	20	5	0	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 2	少し高い 19	少し低い 2	低すぎる 2	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	179	127	90	16	7	0	4.1	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	69	70	21	4	2	0	4.2	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	4	6	11	4	6	51	2.9	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.6
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



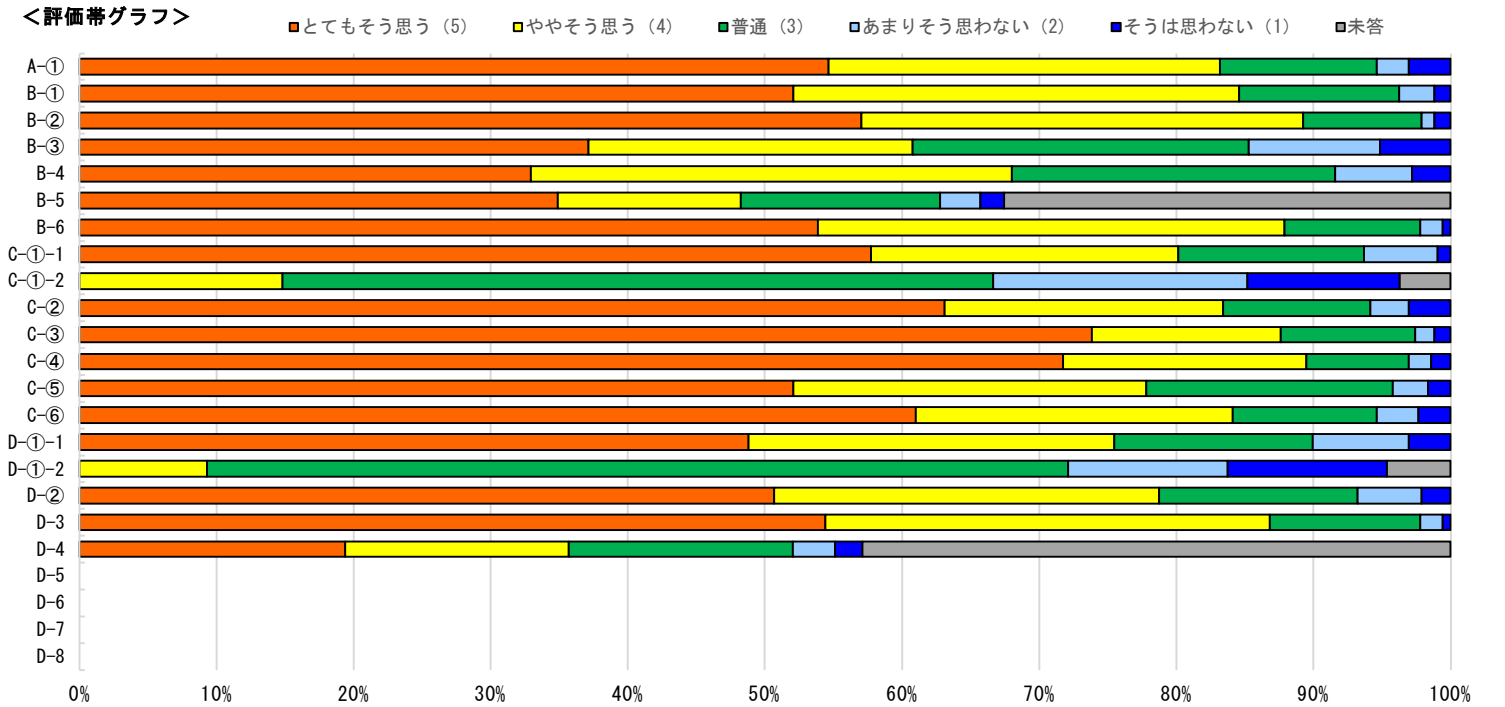
2024年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	グローバルビジネス学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
24生	341	---	---
23生	55	---	---
22生	22	---	---
21生以前	7	---	---
その他	3	---	---
不明	0	---	---
合計	428	1,518	28%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	234	122	49	10	13	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	223	139	50	11	5	0	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	244	138	37	4	5	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	159	101	105	41	22	0	3.8	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	141	150	101	24	12	0	3.9	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	120	46	50	10	6	112	4.1	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	98	62	18	3	1	0	4.4	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	247	96	58	23	4	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		早すぎる 4	少し早い 14	少し遅い 5	遅すぎる 3	未答 1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	270	87	46	12	13	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	316	59	42	6	5	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	307	76	32	7	6	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	223	110	77	11	7	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	261	99	45	13	10	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	209	114	62	30	13	0	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		高すぎる 4	少し高い 27	少し低い 5	低すぎる 5	未答 2		
D-② この授業に大変興味を持てた。	217	120	62	20	9	0	4.2	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	99	59	20	3	1	0	4.4	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	19	16	16	3	2	42	3.8	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.6
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



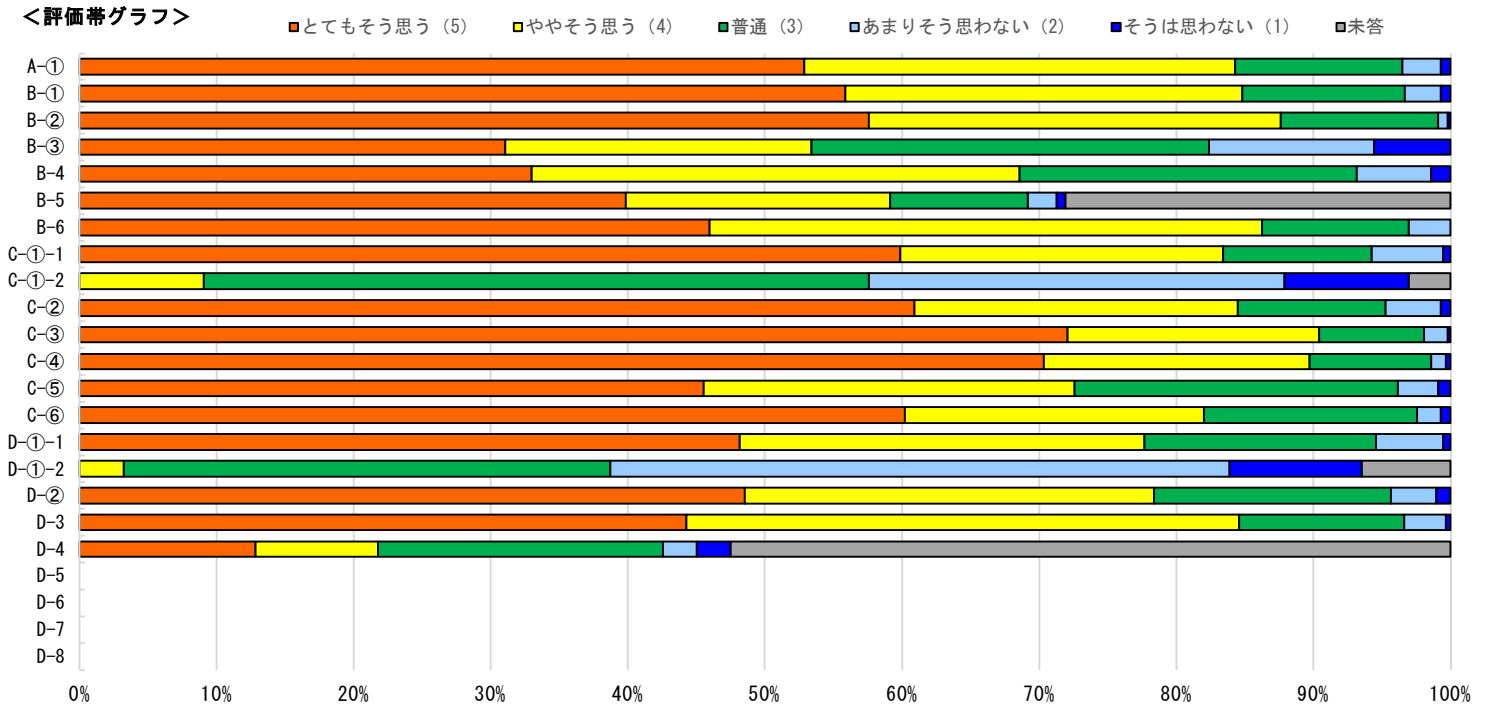
2024年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	国際教養学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
24生	389	---	---
23生	162	---	---
22生	17	---	---
21生以前	4	---	---
その他	1	---	---
不明	0	---	---
合計	573	2,144	27%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	303	180	70	16	4	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	320	166	68	15	4	0	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	330	172	66	4	1	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	178	128	166	69	32	0	3.6	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	189	204	141	31	8	0	3.9	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	190	92	48	10	3	134	4.3	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	137	120	32	9	0	0	4.3	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	343	135	62	30	3	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		早すぎる 3	少し早い 16	少し遅い 10	遅すぎる 3	未答 1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	349	135	62	23	4	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	413	105	44	10	1	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	403	111	51	6	2	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	261	155	135	17	5	0	4.1	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	345	125	89	10	4	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	276	169	97	28	3	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		高すぎる 1	少し高い 11	少し低い 14	低すぎる 3	未答 2		
D-② この授業に大変興味を持てた。	278	171	99	19	6	0	4.2	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	132	120	36	9	1	0	4.3	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	26	18	42	5	5	106	3.6	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.6
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



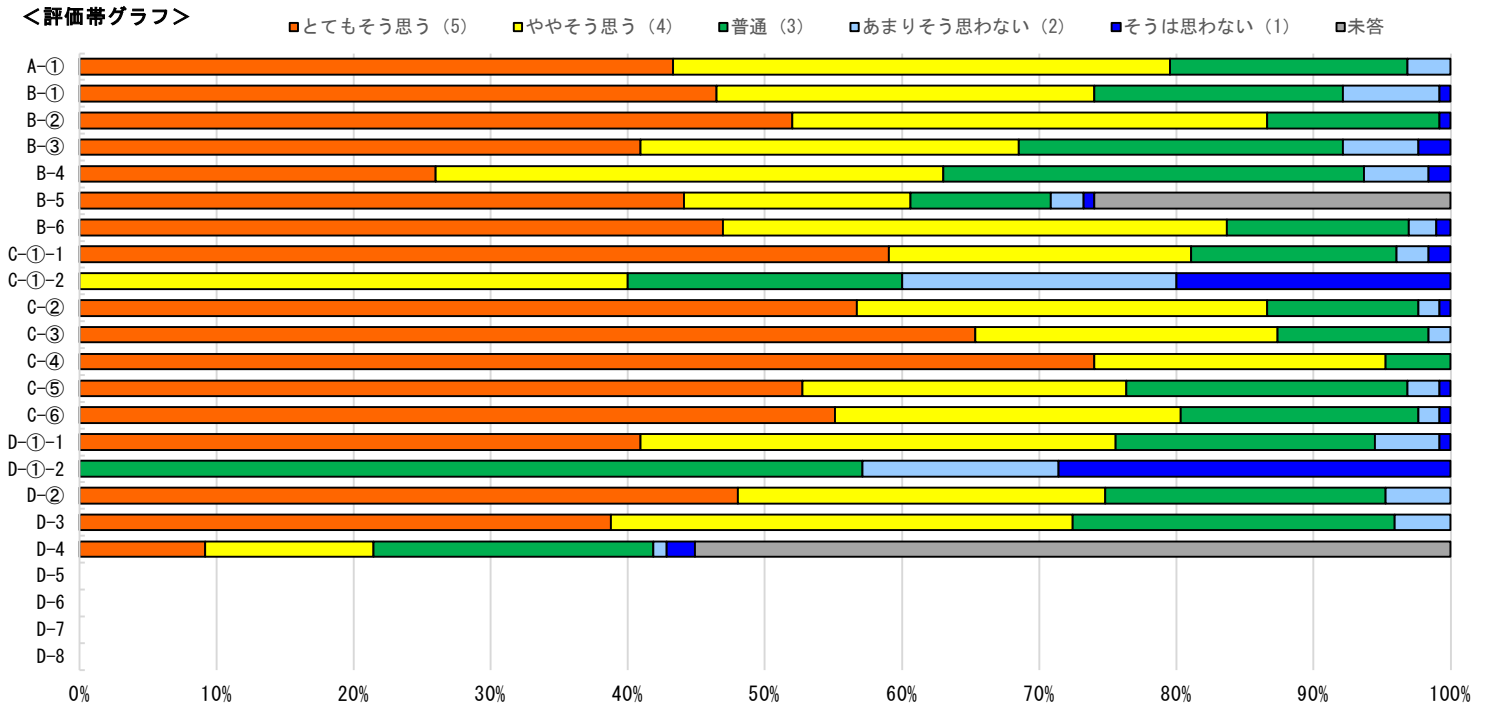
2024年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	現代国際学部共通

入学年度	回答数	受講者数	回収率
24生	8	---	---
23生	86	---	---
22生	29	---	---
21生以前	4	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	127	558	23%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	55	46	22	4	0	0	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	59	35	23	9	1	0	4.1	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	66	44	16	0	1	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	52	35	30	7	3	0	4.0	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	33	47	39	6	2	0	3.8	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	56	21	13	3	1	33	4.4	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	46	36	13	2	1	0	4.3	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	75	28	19	3	2	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 2	少し早い 1	少し遅い 1	遅すぎる 1	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	72	38	14	2	1	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	83	28	14	2	0	0	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	94	27	6	0	0	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	67	30	26	3	1	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	70	32	22	2	1	0	4.3	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	52	44	24	6	1	0	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 0	少し高い 4	少し低い 1	低すぎる 2	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	61	34	26	6	0	0	4.2	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	38	33	23	4	0	0	4.1	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	9	12	20	1	2	54	3.6	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.6
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



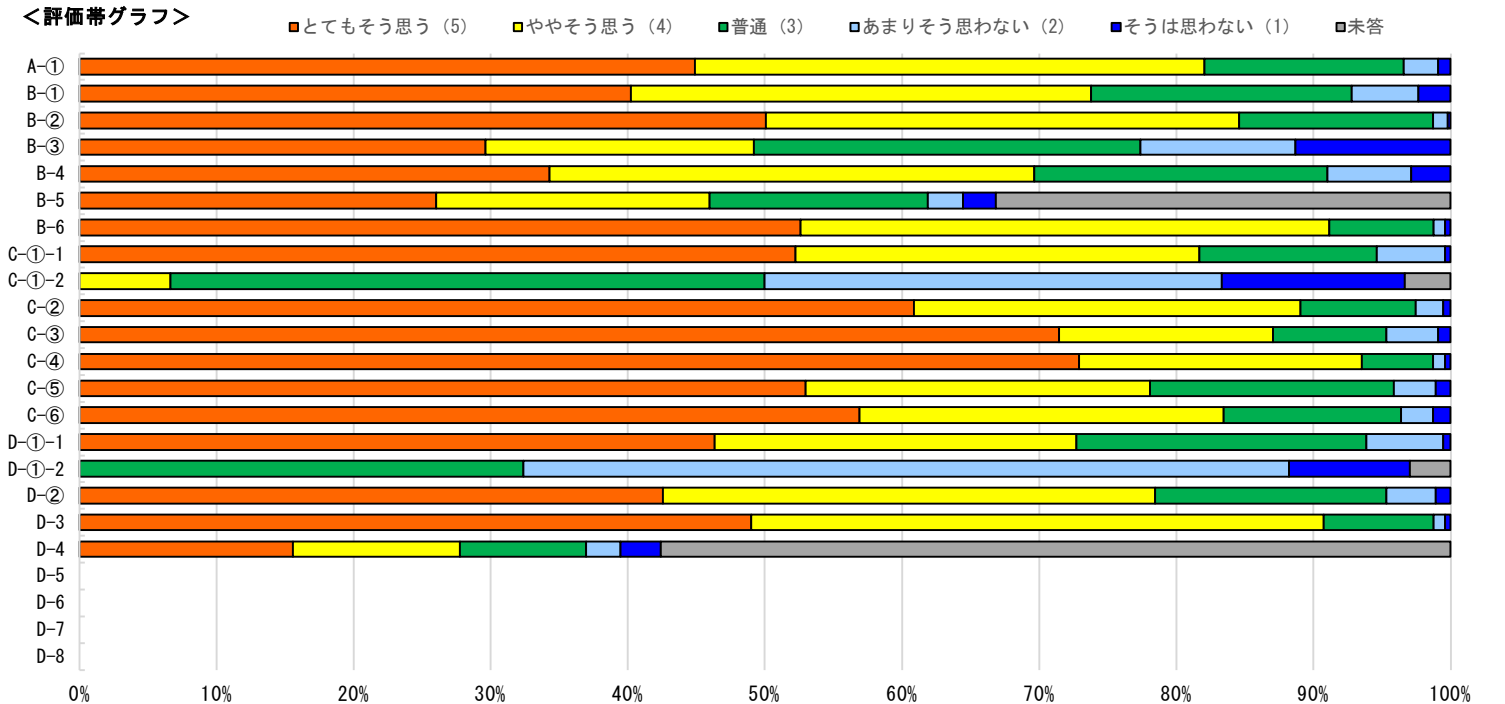
2024年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	世界共生学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
24生	252	---	---
23生	158	---	---
22生	104	---	---
21生以前	40	---	---
その他	3	---	---
不明	0	---	---
合計	557	1,539	36%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	250	207	81	14	5	0	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	224	187	106	27	13	0	4.0	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	279	192	79	6	1	0	4.3	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	165	109	157	63	63	0	3.4	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	191	197	119	34	16	0	3.9	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	142	109	87	14	13	181	4.0	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	131	96	19	2	1	0	4.4	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	291	164	72	28	2	0	4.3	4.3
C-①-2	そうは思わない、あまりそう思わないの場合	早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		2	13	10	4	1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	339	157	47	11	3	0	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	398	87	46	21	5	0	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	406	115	29	5	2	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	295	140	99	17	6	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	317	148	72	13	7	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	258	147	118	31	3	0	4.1	4.2
D-①-2	そうは思わない、あまりそう思わないの場合	高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		0	11	19	3	1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	237	200	94	20	6	0	4.2	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	122	104	20	2	1	0	4.4	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	37	29	22	6	7	137	3.8	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.6
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



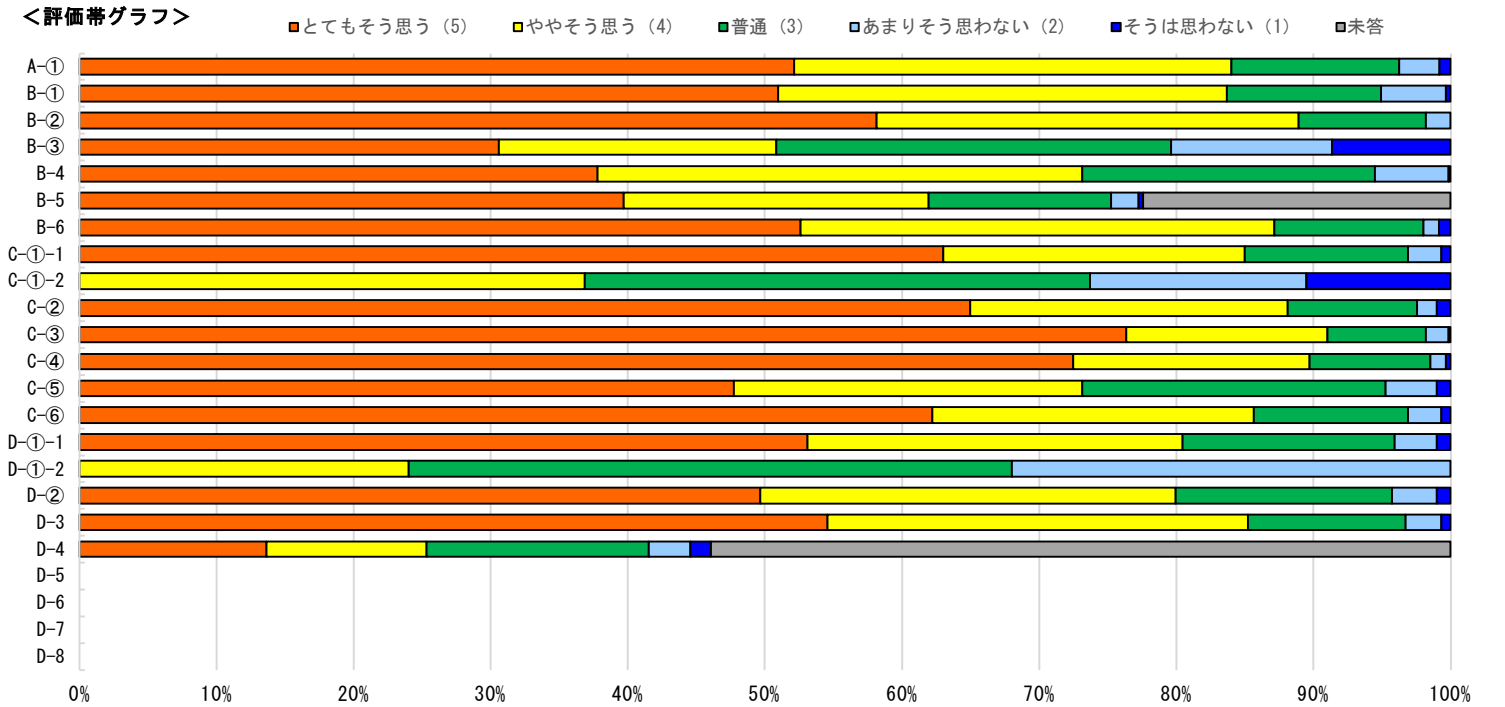
2024年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	世界教養学科（養）

入学年度	回答数	受講者数	回収率
24生	308	---	---
23生	178	---	---
22生	38	---	---
21生以前	80	---	---
その他	10	---	---
不明	0	---	---
合計	614	1,618	38%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	320	196	75	18	5	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	313	201	69	29	2	0	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	357	189	57	11	0	0	4.5	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	188	124	177	72	53	0	3.5	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	232	217	131	33	1	0	4.1	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	218	122	73	11	2	123	4.3	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	242	159	50	5	4	0	4.4	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	387	135	73	15	4	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 7	少し早い 7	少し遅い 3	遅すぎる 2	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	399	142	58	9	6	0	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	469	90	44	10	1	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	445	106	54	7	2	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	293	156	136	23	6	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	382	144	69	15	4	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	326	168	95	19	6	0	4.3	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 6	少し高い 11	少し低い 8	低すぎる 0	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	305	186	97	20	6	0	4.2	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	251	141	53	12	3	0	4.4	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	54	46	64	12	6	213	3.7	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.6
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



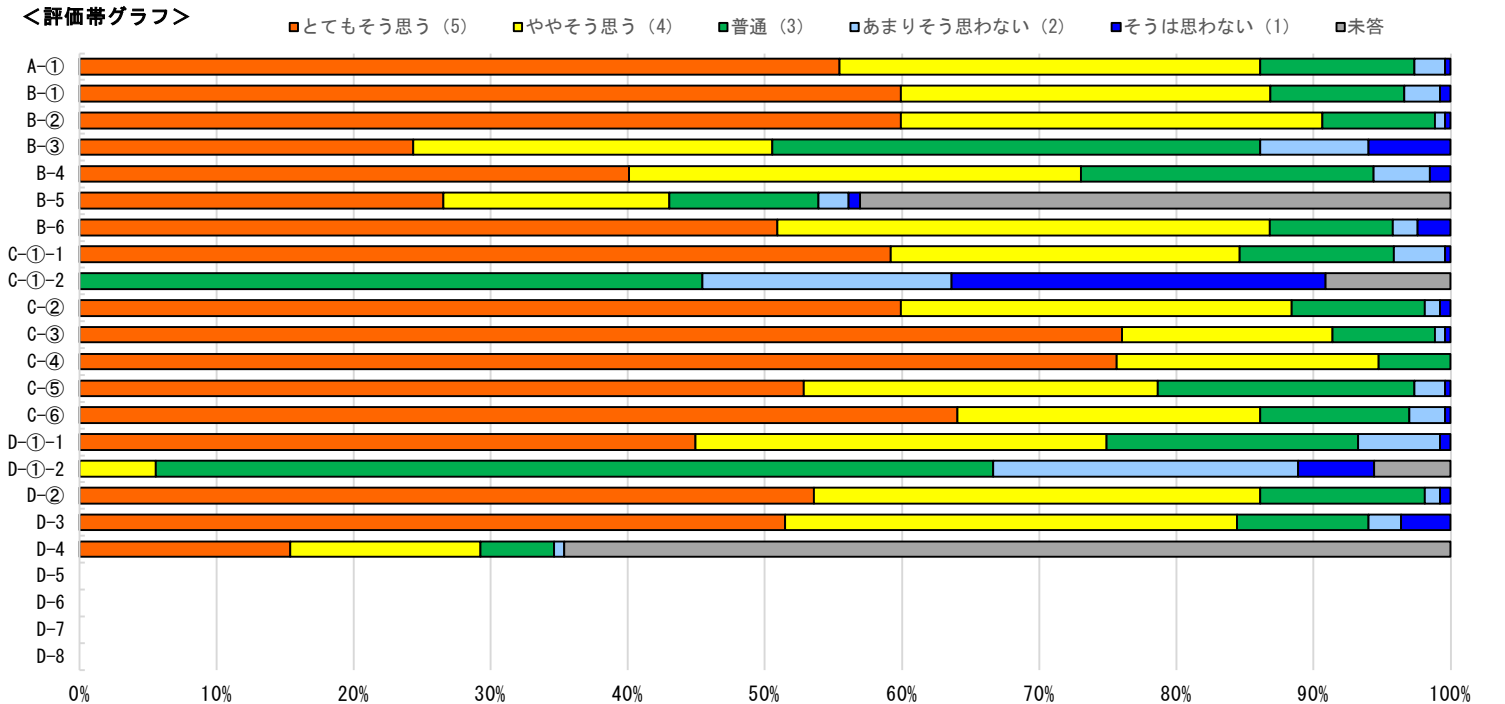
2024年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	国際日本学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
24生	203	---	---
23生	13	---	---
22生	37	---	---
21生以前	5	---	---
その他	9	---	---
不明	0	---	---
合計	267	962	28%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	148	82	30	6	1	0	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	160	72	26	7	2	0	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	160	82	22	2	1	0	4.5	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	65	70	95	21	16	0	3.6	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	107	88	57	11	4	0	4.1	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	61	38	25	5	2	99	4.2	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	85	60	15	3	4	0	4.3	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	158	68	30	10	1	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 0	少し早い 5	少し遅い 2	遅すぎる 3	未答 1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	160	76	26	3	2	0	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	203	41	20	2	1	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	202	51	14	0	0	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	141	69	50	6	1	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	171	59	29	7	1	0	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	120	80	49	16	2	0	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 1	少し高い 11	少し低い 4	低すぎる 1	未答 1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	143	87	32	3	2	0	4.4	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	86	55	16	4	6	0	4.3	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	20	18	7	1	0	84	4.2	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.6
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



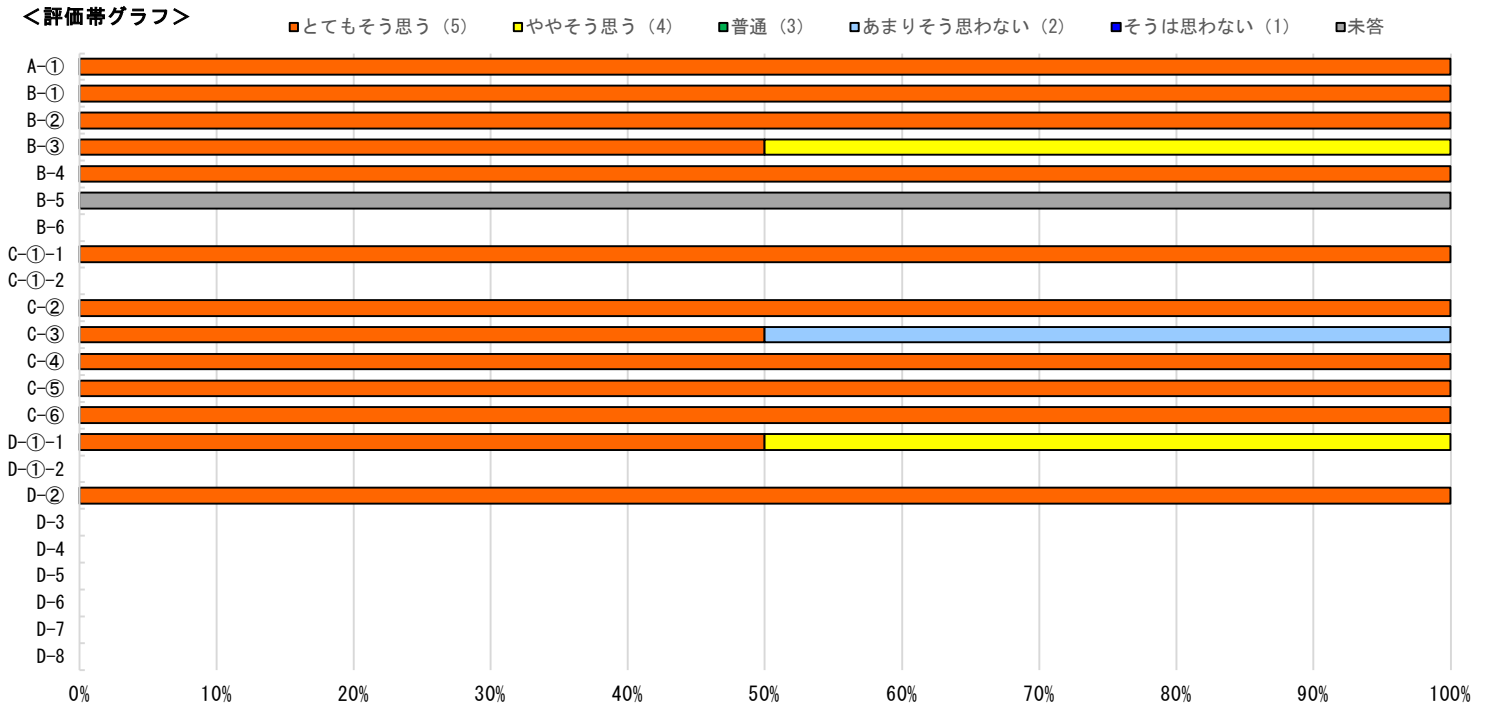
2024年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	世界教養学部共通

入学年度	回答数	受講者数	回収率
24生	2	---	---
23生	0	---	---
22生	0	---	---
21生以前	0	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	2	17	12%

質問別回答集計表（人数と平均値）

		5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。		2	0	0	0	0	0	5.0	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。		2	0	0	0	0	0	5.0	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。		2	0	0	0	0	0	5.0	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを 活用した。		1	1	0	0	0	0	4.5	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。		2	0	0	0	0	0	5.0	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に 活用した。		0	0	0	0	0	2	-	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上 について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く		0	0	0	0	0	0	-	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。		2	0	0	0	0	0	5.0	4.3
C-①-2	そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
			0	0	0	0	0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。		2	0	0	0	0	0	5.0	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。		1	0	0	1	0	0	3.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。		2	0	0	0	0	0	5.0	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。		2	0	0	0	0	0	5.0	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。		2	0	0	0	0	0	5.0	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。		1	1	0	0	0	0	4.5	4.2
D-①-2	そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
			0	0	0	0	0		
D-② この授業に大変興味を持てた。		2	0	0	0	0	0	5.0	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力 （話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力の いずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことが できた。		0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した 言語の文化への興味を持つことができた。		0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による 授業補助は、十分であった。		0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・ 増進することに役立った。		0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。		0	0	0	0	0	0	-	4.6
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが 好きになった。		0	0	0	0	0	0	-	4.7



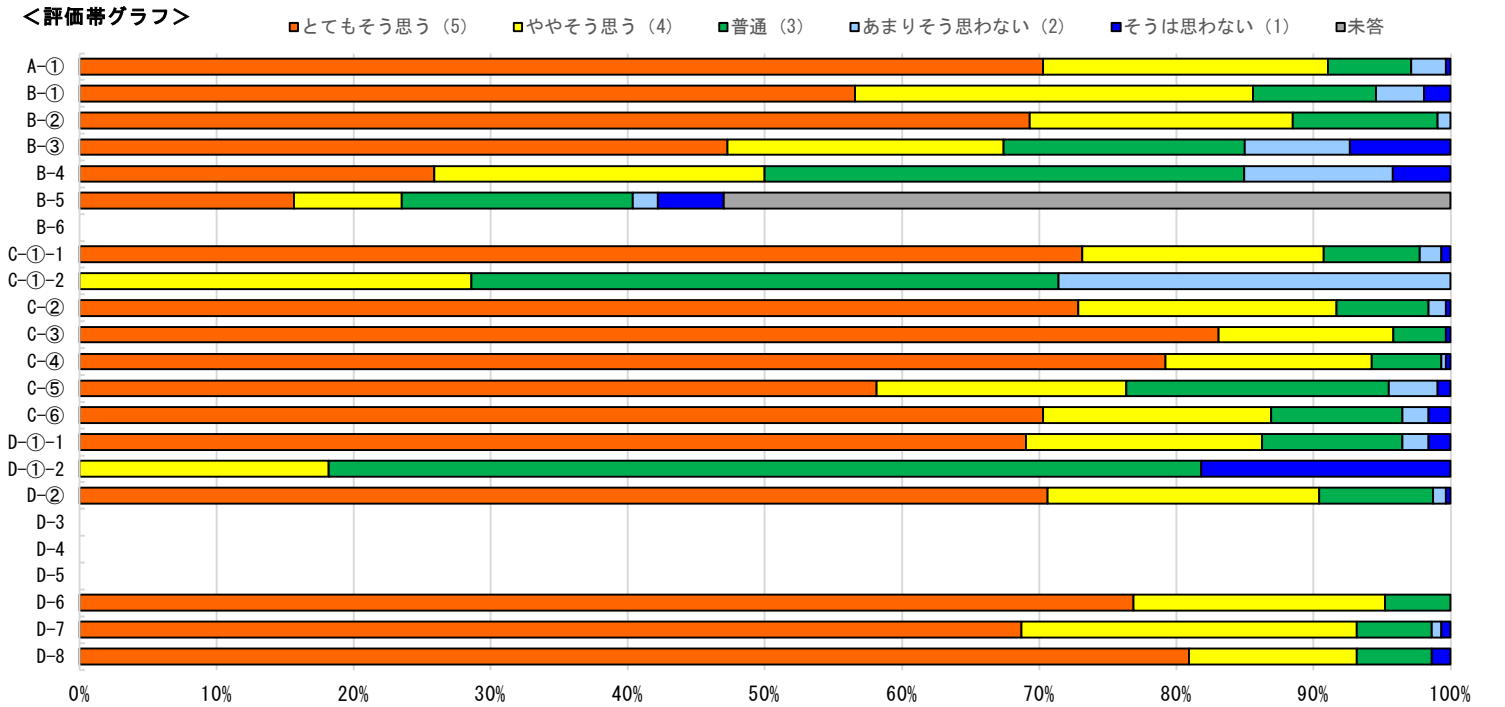
2024年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	4 学部共通

入学年度	回答数	受講者数	回収率
24生	257	---	---
23生	46	---	---
22生	6	---	---
21生以前	4	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	313	995	31%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	220	65	19	8	1	0	4.6	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	177	91	28	11	6	0	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	217	60	33	3	0	0	4.6	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	148	63	55	24	23	0	3.9	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	43	40	58	18	7	0	3.6	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	26	13	28	3	8	88	3.6	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	229	55	22	5	2	0	4.6	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 2	少し早い 3	少し遅い 2	遅すぎる 0	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	228	59	21	4	1	0	4.6	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	260	40	12	0	1	0	4.8	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	248	47	16	1	1	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	182	57	60	11	3	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	220	52	30	6	5	0	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	216	54	32	6	5	0	4.5	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 2	少し高い 7	少し低い 0	低すぎる 2	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	221	62	26	3	1	0	4.6	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	113	27	7	0	0	0	4.7	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	101	36	8	1	1	0	4.6	4.6
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	119	18	8	0	2	0	4.7	4.7



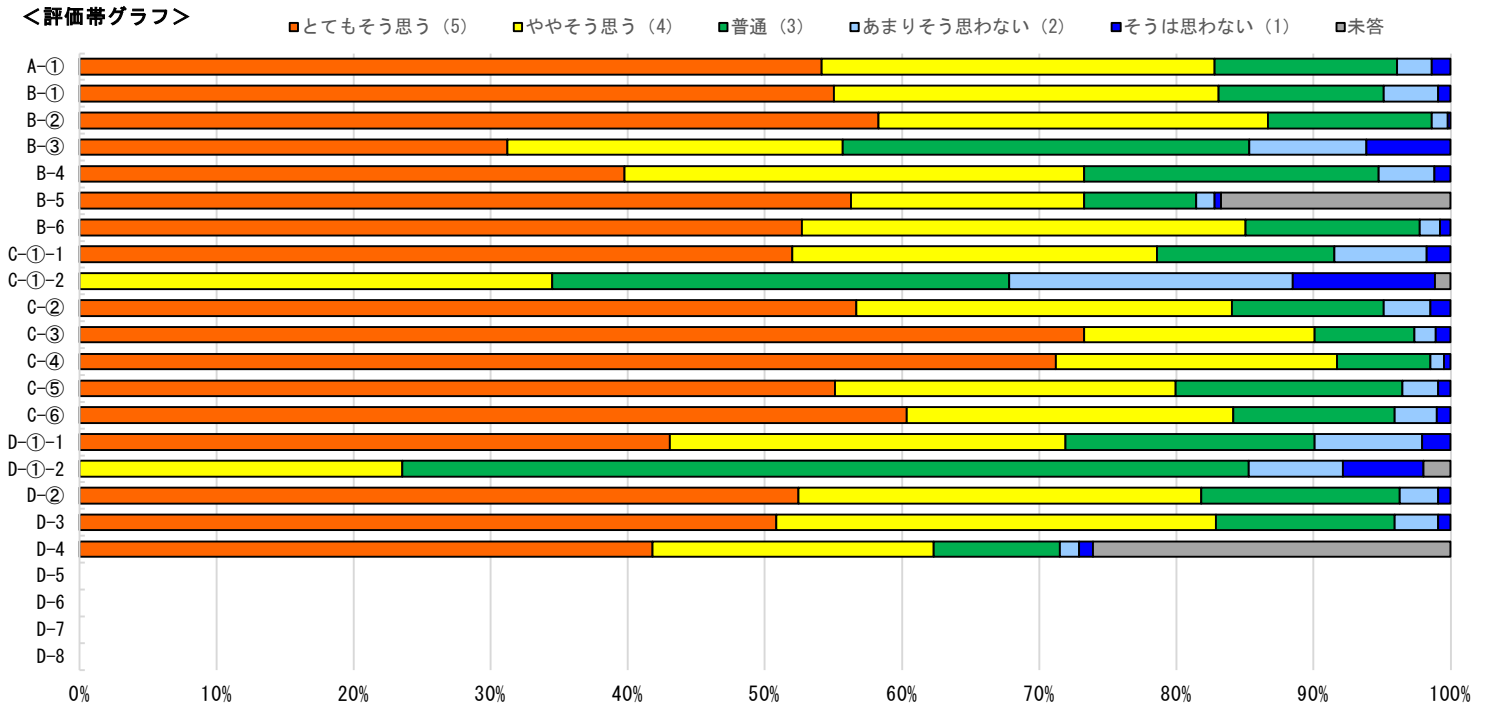
2024年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	CLED

入学年度	回答数	受講者数	回収率
24生	492	---	---
23生	344	---	---
22生	135	---	---
21生以前	53	---	---
その他	5	---	---
不明	0	---	---
合計	1,029	4,202	24%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	557	295	137	26	14	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	566	289	124	41	9	0	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	600	292	123	12	2	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	321	252	305	88	63	0	3.7	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	409	345	221	42	12	0	4.1	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	579	175	84	14	5	172	4.5	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	542	333	131	15	8	0	4.3	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	535	274	133	69	18	0	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	583	282	114	35	15	0	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	754	173	75	16	11	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	733	211	70	10	5	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	567	256	170	27	9	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	621	245	121	32	10	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	443	297	187	81	21	0	4.0	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。	540	302	149	29	9	0	4.3	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	523	330	134	33	9	0	4.3	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	430	211	95	14	11	268	4.4	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.6
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



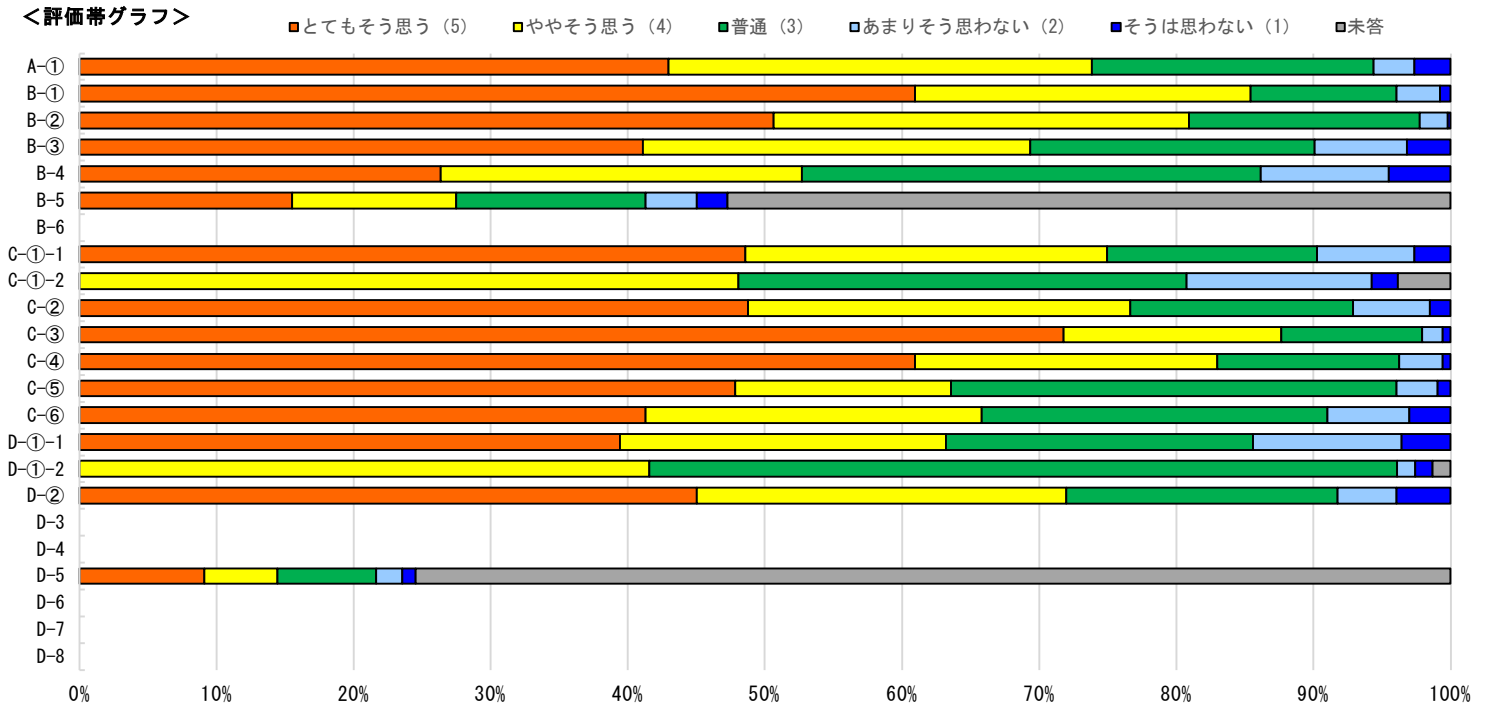
2024年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	CLAD

入学年度	回答数	受講者数	回収率
24生	198	---	---
23生	194	---	---
22生	86	---	---
21生以前	55	---	---
その他	2	---	---
不明	0	---	---
合計	535	3,960	14%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	230	165	110	16	14	0	4.1	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	326	131	57	17	4	0	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	271	162	90	11	1	0	4.3	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	220	151	111	36	17	0	4.0	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	141	141	179	50	24	0	3.6	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	83	64	74	20	12	282	3.7	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	260	141	82	38	14	0	4.1	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		早すぎる 25	少し早い 17	少し遅い 7	遅すぎる 1	未答 2		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	261	149	87	30	8	0	4.2	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	384	85	55	8	3	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	326	118	71	17	3	0	4.4	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	256	84	174	16	5	0	4.1	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	221	131	135	32	16	0	4.0	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	211	127	120	58	19	0	3.8	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		高すぎる 32	少し高い 42	少し低い 1	低すぎる 1	未答 1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	241	144	106	23	21	0	4.0	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	19	11	15	4	2	157	3.8	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.6
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



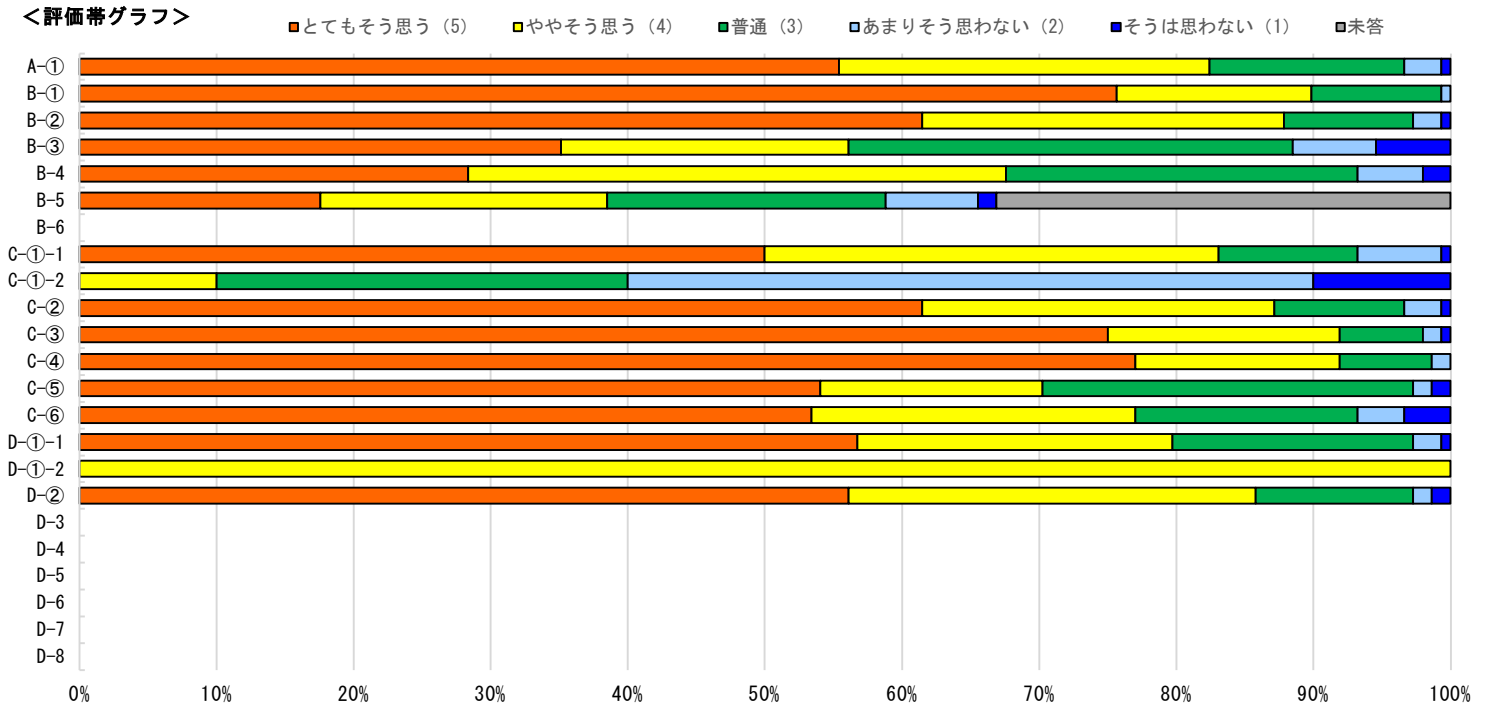
2024年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	教職センター

入学年度	回答数	受講者数	回収率
24生	34	---	---
23生	45	---	---
22生	50	---	---
21生以前	18	---	---
その他	1	---	---
不明	0	---	---
合計	148	787	19%

質問別回答集計表（人数と平均値）

		5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。		82	40	21	4	1	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。		112	21	14	1	0	0	4.6	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。		91	39	14	3	1	0	4.5	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを 活用した。		52	31	48	9	8	0	3.7	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。		42	58	38	7	3	0	3.9	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に 活用した。		26	31	30	10	2	49	3.7	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上 について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く		0	0	0	0	0	0	-	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。		74	49	15	9	1	0	4.3	4.3
C-①-2	そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
			1	3	5	1	0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。		91	38	14	4	1	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。		111	25	9	2	1	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。		114	22	10	2	0	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。		80	24	40	2	2	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。		79	35	24	5	5	0	4.2	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。		84	34	26	3	1	0	4.3	4.2
D-①-2	そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
			4	0	0	0	0		
D-② この授業に大変興味を持てた。		83	44	17	2	2	0	4.4	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力 （話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力の いずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことが できた。		0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した 言語の文化への興味を持つことができた。		0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による 授業補助は、十分であった。		0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・ 増進することに役立った。		0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。		0	0	0	0	0	0	-	4.6
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが 好きになった。		0	0	0	0	0	0	-	4.7



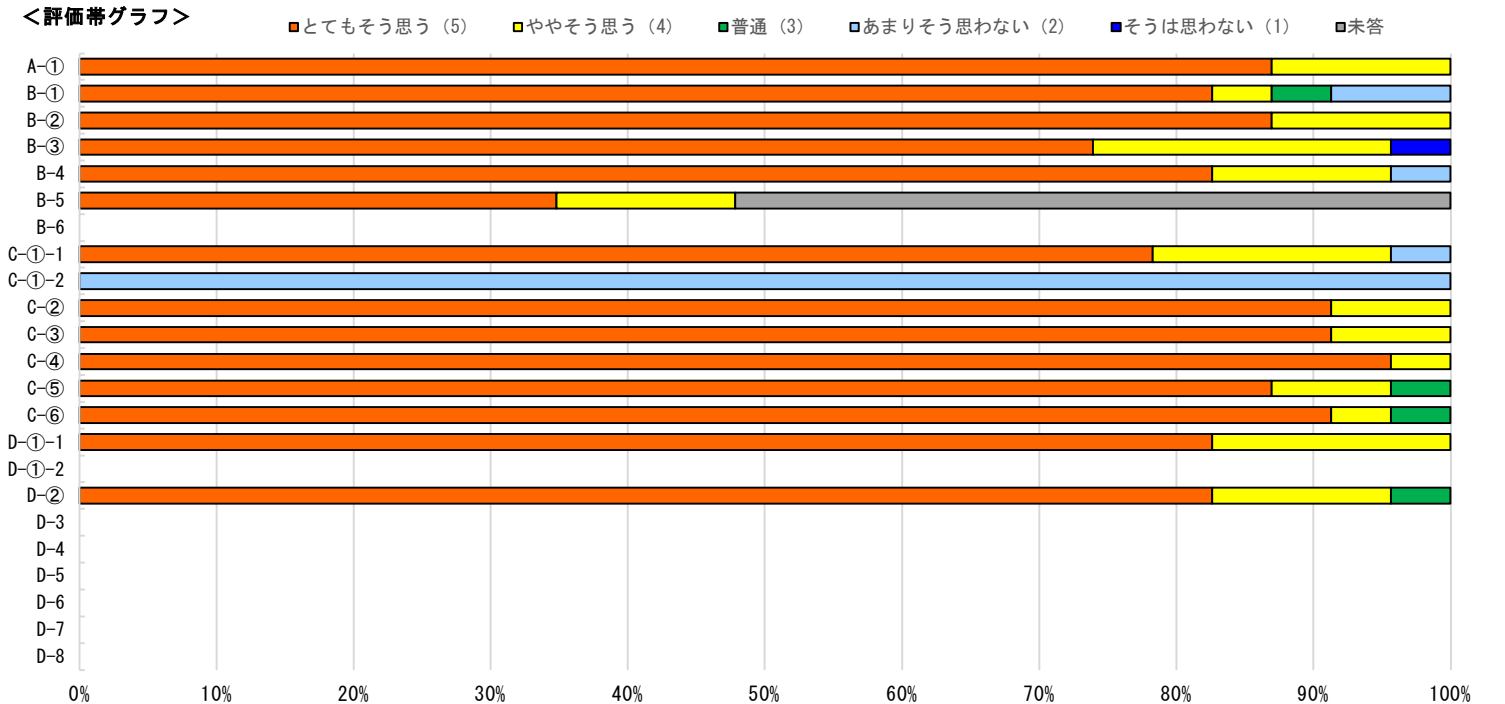
2024年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	大学院

入学年度	回答数	受講者数	回収率
24生	5	---	---
23生	1	---	---
22生	0	---	---
21生以前	0	---	---
その他	17	---	---
不明	0	---	---
合計	23	41	56%

質問別回答集計表（人数と平均値）

		5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。		20	3	0	0	0	0	4.9	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。		19	1	1	2	0	0	4.6	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。		20	3	0	0	0	0	4.9	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを 活用した。		17	5	0	0	1	0	4.6	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に 行なった。		19	3	0	1	0	0	4.7	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に 活用した。		8	3	0	0	0	12	4.7	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上 について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く		0	0	0	0	0	0	-	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。		18	4	0	1	0	0	4.7	4.3
C-①-2	そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
			0	0	1	0	0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。		21	2	0	0	0	0	4.9	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。		21	2	0	0	0	0	4.9	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。		22	1	0	0	0	0	5.0	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。		20	2	1	0	0	0	4.8	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。		21	1	1	0	0	0	4.9	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。		19	4	0	0	0	0	4.8	4.2
D-①-2	そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
			0	0	0	0	0		
D-② この授業に大変興味を持てた。		19	3	1	0	0	0	4.8	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力 （話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力の いずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことが できた。		0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した 言語の文化への興味を持つことができた。		0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による 授業補助は、十分であった。		0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・ 増進することに役立った。		0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。		0	0	0	0	0	0	-	4.6
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが 好きになった。		0	0	0	0	0	0	-	4.7



2024年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科 別科
集計名称	

入学年度	回答数	受講者数	回収率
24生	54	---	---
23生	10	---	---
22生	5	---	---
21生以前	13	---	---
その他	36	---	---
不明	0	---	---
合計	118	470	25%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	65	37	11	4	1	0	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	42	56	15	5	0	0	4.1	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	66	45	7	0	0	0	4.5	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	82	24	6	4	2	0	4.5	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	58	44	14	2	0	0	4.3	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	48	19	13	2	0	36	4.4	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	67	31	16	4	0	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	72	31	13	2	0	0	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	86	26	3	3	0	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	87	22	7	0	2	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	74	29	11	2	2	0	4.4	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	79	27	12	0	0	0	4.6	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	68	28	9	9	4	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。	79	24	12	2	1	0	4.5	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.0
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.6
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

